

平成30年度

大分大学

高等教育開発センター報告書

# 目 次

はじめに	1
I 高等教育開発センター事業概要	2
II 各部門活動・事業報告	
1. 新規授業・カリキュラム開発部門／メディア・IT活用部門／FD・授業評価部門	4
・教育改革への支援	
・FD・SDに関連する事業	
・FDプログラムガイドパンフレットの作成	
・学生による授業評価アンケートの実施	
・高等教育に関する調査研究	
2. 大学開放推進部門／生涯学習支援システム部門	50
・大学開故事業の推進	
・大学教育と生涯学習の接続・連携	
・情報収集提供・相談活動	
・学内のネットワーク化	
・地域生涯学習支援システムの整備	
・生涯学習推進と社会的活動の取組	
III 付録	64
1. センター関係諸規則（投稿規程を含む）	
2. 高等教育開発センター運営委員会・各部門センター員名簿	

## はじめに

大分大学高等教育開発センター次長

牧野 治敏

日頃よりセンターの活動にご支援、ご協力いただきありがとうございます。高等教育開発センターの平成 30 年度報告書をお届けします。

本学では、平成 28 年度には、福祉健康科学部の新設と教育福祉科学部から教育学部への改組、平成 29 年度には、工学部から理工学部への改組と経済学部の新学科発足というように、大きな節目を迎えています。また、平成 27 年度から始まった COC+事業は本年度で 4 年目となり、大学の主体的な運営が一層求められるようになっていきます。このような状況のもとで大学に求められる教育活動では、従来の「教員が何を教えるのか」「大学としてどのようなメニューを提供するのか」から「学生が何を身につけるのか」「どのような学生に学位を授与するのか」へとシフトしています。大学の授業においては、アクティブラーニングの推進と実質化、さらに課題解決学習の実施などが求められ、教育者としての教員の役割も大きくなっています。その一方で、地方の大学としての地域との連携も推進されなければなりません。本年度は新たな取り組みとして、大分県内の高等教育機関の連携による FD と SD の研修会を企画実施しました。これまでも、大分県内の高等教育機関が連携し単位互換制度や研修会への相互参加等を実施してきましたが、それに加えて、本年度は研修会の企画段階から連携することで、新たな事業の可能性を探りました。その経緯を本報告書に記載しています。

高等教育開発センターは、メディア・IT 活用、FD・授業評価、大学開放推進、生涯学習支援システムの各部門にそ教員を配置し、全学的な教育改革・改善への取り組みに向けて、研究、支援、企画や実施などの業務を行っています。それらの各部門の活動は、各部署等から選出いただいた委員をはじめ、多くの教職員の方々のご支援やご協力をいただくことで現実のものとなっています。本センターの事業内容について、平成 30 年度に実施した各部門の主要な取り組みを整理する形でまとめました。

報告書の刊行にあたり、センターの事業運営に多大なるご支援、ご協力をいただく学内外の関係者の皆様に、この場を借りて深謝いたします。また、本センターのさらなる発展のために、今後とも一層のご支援をお願い申し上げます。

令和 2 年 3 月

# I 高等教育開発センター事業概要

高等教育開発センターは、「学内外の関係機関との連携の下に、高等教育及び生涯学習に関する調査・研究及び教育事業を積極的に推進し、もって大分大学における教育及び地域社会の発展に寄与すること」を目的として設置されている。その目的を達成するための平成 30 年度の成果について、部門ごとに列挙すると以下のようになる。

## 1. 新規授業・カリキュラム開発部門／メディア・IT 活用部門／FD・授業評価部門

- ・教育改革への支援
- ・FD・SD に関連する事業
- ・FD プログラムガイドパンフレットの作成
- ・学生による授業評価アンケートの実施
- ・高等教育に関する調査研究

## 2. 大学開放推進部門／生涯学習支援システム部門

- ・大学開放事業の推進
- ・大学教育と生涯学習の接続・連携
- ・情報収集提供・相談活動
- ・学内のネットワーク化
- ・地域生涯学習支援システムの整備
- ・生涯学習推進と社会的活動の取組

#### 4. 平成 30 年度高等教育開発センター運営委員会

##### 第 1 回

日 時：平成 30 年 6 月 14 日（木）14：52～15：20

場 所：旦野原キャンパス 教養教育棟 会議室 2

挾間キャンパス 第 2 会議室【遠隔会議システムを利用】

議 題

1. 平成 29 年度各部門活動報告及び平成 30 年度活動計画について
2. 平成 29 年度決算報告及び平成 30 年度予算案について
3. 平成 30 年度計画・アクションプランへの対応について
4. その他

##### 第 2 回 メール審議

回答期日：平成 30 年 12 月 19 日（水）12：00

議 題

1. 『高等教育開発センター紀要』の投稿申込者の資格について

##### 第 3 回

日 時：平成 31 年 2 月 20 日（水）15：00～15：20

場 所：旦野原キャンパス 教養教育棟 会議室 2

挾間キャンパス 第 2 会議室【遠隔会議システムを利用】

議 題

1. 大分大学公開講座講習料規程の改正について
2. その他

##### 第 4 回 メール審議

回答期日：平成 31 年 2 月 28 日（木）12：00

議 題

1. 大分大学公開講座講習料規定の改正について

## 1. 新規授業・カリキュラム開発部門／メディア・IT活用部門／

### FD・授業評価部門

3つの部門の主な活動として、本学の教育改善を目的として、授業やカリキュラムの設計から、授業の省察までをテーマとした研修会を企画、実施するとともに、授業を評価するための学生による授業評価アンケートを実施し、その結果を報告書として作成している。具体的には、インストラクショナル・デザインを活用した授業設計・教材の開発等の個別の授業改善の支援、質保証フレームワーク構築の支援、教学 IR のための調査の実施と分析、教員相互の授業参観の推進、単位互換の推進および大学等間連携授業の支援を行うことである。

3つの部門の業務は部門横断的に行われており、教員からの個別の授業改善の要望に応じた授業のコンサルテーションを授業評価アンケートと関連づける研究を進めているとともに、授業を支援する教育機器の相談、教室整備へのアドバイス等の業務についても共通する部分が多い。そこで、本年度から3つの部門の業務を一括して報告することにした。

また、教育改善に関する他大学の動向についての調査、研究も従来から継続している。さらに、本年度も大分大学を中心として実施されている「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）」について教育改善の立場から関与している。

今年度取り組んだ主な事業は以下の通りである。それぞれの事業について、報告する。

#### 【平成 30 年度の主な取り組み】

1. 教育改革への支援
2. FD・SDに関連する事業
3. FDプログラムガイドパンフレットの作成
4. 学生による授業評価アンケートの実施
5. 高等教育に関する調査研究

## 1. 教育改革への支援

### (1) 教員相互の授業参観

本学では、2006年度（平成18年度）から教員相互の授業参観を実施しているが、全学的に統一的な仕組みが構築されていなかった。平成30年度後期から、全学的に実施方法の見直しを行い、授業参観可能期間を設定し、授業参観可能科目の選定依頼や情報収集・提供、参観後の授業担当教員と参観教員との情報交換方法について、提案し試行した。教養教育科目については全学教育機構運営会議を通じて依頼を受けた高等教育開発センターが、専門教育科目については各学部が授業参観可能な科目を選定し、事前に学内イントラネットや高等教育開発センターのウェブサイトを通じて広報した。授業参観後、参観教員には、高等教育開発センターのウェブサイトのフォームに参観しての感想や意見等（良いと感じたことや参考にしたいこと、新たな気づきなど、建設的な意見）を300字以内で報告し、その後、授業担当者には、その返答への報告を依頼した。また、教員相互の授業参観後に授業検討会の開催を希望する場合には、高等教育開発センターが支援することとした。

### (2) 教員用「シラバス作成の手引き」の作成と説明会の開催

2018年度第8回全学教育機構運営会議において、2019年度の開講科目からシラバス様式を変更することが了承された。シラバス様式は、教務情報システムの更新時期に合わせて、昨今の本学の教育改革の状況を踏まえつつ検討した。主な変更点は以下の通りである。

1. 「ナンバリング」欄の追加
2. 「授業の概要」欄の追加（「授業のねらい」から変更）
3. 「具体的な到達目標」を箇条書きに変更
4. 「具体的な到達目標」とディプロマ・ポリシーとの対応付け欄（対応表）の追加
5. 「授業の内容」を授業回ごとの記入に変更
6. 「アクティブ・ラーニングの4タイプ」欄の追加
7. 「アクティブ・ラーニング」の方策等欄の追加
8. 「その他の工夫」欄の追加
9. 「時間外学修の内容と時間の目安」の「準備学修」と「事後学修」欄を追加
10. 「成績評価の方法及び評価割合」の「評価方法」と「目標」との対応付け欄（対応表）の追加
11. 「リンク」欄の追加
12. 「担当教員の実務経験者の有無」、「教員の実務経験」、「教員以外で指導に関わる実務経験者の有無」、「教員以外の指導に関わる実務経験者」、「実務経験をいかした教育内容」欄の追加

シラバス様式の変更に伴い、シラバス様式の説明やその作成方法について、教員用「シラバス作成の手引き」（表紙を含め28ページ）を作成し、全学部で説明会を開催した。

### (3) 大分県内大学等の連携によるFD・SD実施体制の構築

大分大学高等教育開発センターでは、大分県合同FD・SDフォーラム（以下、合同FD・SDフォーラムと略す）の開催を、平成30年2月15日開催の平成29年度第4回とよのまなびコンソーシアムおおいた共通教育分科会で提案した。また、なるべく多くの県内大学等に参加を呼びかけるために、平成30年3月8日開催の大学等による「おおいた創生」推進協議会平成29年度第7回教育プログラム開発部会においても合同FD・SDフォーラムの開催を提案し、審議の結果、承認された。その後、平成30年3月23日開催の平成29年第2回とよのまなびコンソーシアムおおいた運営委員会においても、平成30年度事業計画として了承された。地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）の実施期間中の開催のための予算については、大分大学COC+推進機構が負担することとした。

合同FD・SDフォーラム開催の目的は、大分県内にある大学等学術機関の持つ知を集結し、FD・SDの取組を連携、協力することによって、県内の大学等の教育レベルを向上させ、地域の教育および研究の充実発展を図るとともに、活力ある地域を創生することである。大学等による「おおいた創生」推進協議会の連携大学等である大分県立看護科学大学、大分県立芸術文化短期大学、大分工業高等専門学校、大分大学、大分短期大学、日本文理大学、東九州短期大学、別府大学、別府大学短期大学部、別府溝部学園短期大学、立命館アジア太平洋大学の11の大学等の合同で開催することとした。

テーマの選定や会場校については、連携大学等のFD・SD担当者に参加を要請した大分県内大学等FD・SD担当者会議で議論し、決定した。第1回目となる大分県内大学等FD・SD担当者会議は、平成30年7月19日に、J:COMホルトホール大分2階サテライトキャンパスおおいた講義室において開催された。大分県内大学等FD・SD担当者会議では、合同FD・SDフォーラムの年1回の開催に加えて、各大学等で実施するFD・SDプログラムの相互参加や共同開催などについても検討していくこととした。

平成30年度の合同FD・SDフォーラムは、日本文理大学を開催校として、平成31年2月22日に開催した。第1回目の開催であることから、テーマ「地域の大学間連携によるFD・SDを成功させるために」と題して、国立大学法人愛媛大学の教育・学生支援機構教授の中井俊樹氏の講演「大学間連携によるFDの推進」、愛媛大学SD統括コーディネーター・教育学生支援部教育企画課能力開発室室長の吉田一恵氏の講演「大学間連携によるSDの推進」の後、参加者とのディスカッションを行った。

フォーラム開催に先だって、日本文理大学アクティブラーニング教室にて、FD・SD担当者のみを対象に、「SDの運営について考える：SD担当者の役割とは」と題して、吉田一恵氏によるワークショップを開催した。

### (4) 教養教育科目への支援

#### ①「分大キャンパスライフ入門」

昨年度まではオムニバス授業15回のうちの2回を担当したが、今年度は各回の講義のつ

なかりを考えさせることで学習効果を高める意図で、はじめ、中ほど、終わりの3回分を担当した。

4月18日 グループワーク学習【演習】「キャンパス活用ワークショップ」

5月30日 グループワーク学習【演習】「大分大学での学びを考える」

7月18日 グループワーク学習【演習】「学習を振り返る」

②「とよのまなびコンソーシアムおおいた」による単位互換科目「大分の人と学問」

昨年度と同様に学習管理システム（LMS）である Moodle 上の e ラーニングコンテンツや配信用動画コンテンツの作成や授業支援を行った。全15回の授業は、12回の Moodle を用いた非同期型の遠隔授業と、3回分を集中形式とした対面授業のブレンド型で設計した。授業スケジュールは下に示す表のとおりである。第7、8、9回の対面授業は、センター教員が企画し11月17日に実施した。学術情報拠点且野原図書館1階ラーニングコモンズにおいて、大分県に縁のある人物を紹介するポスター作成およびプレゼンテーションを大学間混成のグループで行った。

回	形式	タイトル
第1回	遠隔	オリエンテーション
第2回	遠隔	今よみがえる田原淳の業績 —ノーベル賞を超える大偉業—
第3回	遠隔	九州考古学の先達～賀川光夫先生の人と学問～
第4回	遠隔	『関あじ・関さば』を科学する
第5回	遠隔	三和酒類が取り組む企業価値創造活動について
第6回	遠隔	大分の水と温泉
第7回	対面	対面授業：グループワーク 場 所：大分大学図書館（且野原）ラーニングコモンズ
第8回		
第9回		
第10回	遠隔	火山と草原と九州
第11回	遠隔	大分県の電力事情
第12回	遠隔	GNT 企業へ脱皮した設備機械メーカーの成功要因と中小・中堅企業が目指す方向性—日特エンジニアリング・アイダエンジニアリングの事例から—
第13回	遠隔	宗麟時代の南蛮音楽
第14回	遠隔	大分県の中の朝鮮半島
第15回	遠隔	人間力概論～地域社会と人間力～

#### (5) 地(知)の拠点大学による地方創生事業(COC+)への協力

「初年次地域キャリアデザインワークショップ」

COC+共同開発科目「大分を創る科目」として大分県下の高等教育機関が合同で開発し実施する授業科目である。2017年度に新規科目として開講した。初年度は大分県内大学への周知期間が十分でなく学生の登録が非常に少なかったことから、急遽後期開講の科目とした。本年度はその反省点を踏まえて、年度当初より学生を募集し、4月からの開講として下記の日程で実施した。各大学担当の授業は大分大学では4月26日5限 第1回授業に実施した。大学の合同授業として5月12日(土)、5月13日(日)、5月20日(日)の3日が大分大学旦野原キャンパスで実施した。

実施の概要を、第25回大学教育研究フォーラム(京都大学)2019年3月23日分科会7において、「高等教育機関の協働による地域で働くことをテーマにした初年次教育プログラムの開発」として報告した。また、当センター紀要第11号に「地域で働くことをテーマにした高等教育機関の協働による初年次教育プログラム」として報告した。

## (6) 単位互換の推進—「大分県内大学等のおおいた単位互換ガイドブック」の作成

昨年度に引き続いて、県内大学等の学生向けに「大分県内大学等のおおいた単位互換ガイドブック」(A5 サイズ 14 ページ)を作成し、県内大学に配布した。

2019

大分県内大学等のおおいた単位互換ガイドブック

大分県立看護科学大学  
大分県立芸術文化短期大学  
大分工業高等専門学校  
大分短期大学  
大分大学  
日本文理大学  
九州短期大学  
別府大学  
別府大学短期大学部  
別府瀬部学園短期大学  
立命館アジア太平洋大学

他の大学等の授業で学んでみませんか

### 単位互換について

- それぞれの大学等から提供される科目を受講し修得した単位を、在籍する大学で認定してもらえます。
- 他の大学等の学生と学んだり、他の大学等のキャンパスで学んだりすることのできる科目もあります。
- 受講希望者が多数となった科目では、受講者調整を実施することがあります。
- 原則として、在籍する大学等に支払っている授業料以外の負担は必要ありません。
- 履修手続きや科目等に関するお問い合わせは、所属大学等の担当窓口へご連絡ください。

### ガイドブックについて

- 2～10ページでは、以下の「マークの説明」に挙げているような他大学等の学生が受講しやすく工夫している科目を取り上げて紹介しています。
- 本ガイドブックは2018年度の授業の内容を参考に作成したものであり、一部変更になっている場合があります。最新の情報をシラバス等でご確認ください。
- 大学等によっては、このガイドブックに掲載されている科目以外にも、他の大学等との単位互換が存在しています。このガイドブックに掲載されている科目以外の大分県内外の大学等や国外の大学等々の単位互換科目については、所属大学等の教務担当窓口へお尋ねください。

### マークの説明

授業配信システムや学習管理システムを用いたインターネットによる受講

授業会場までの無料送迎バスあり

宿泊を伴う集中形式

「おおいだ共創土」認証制度対応科目

大分駅前にあるJCOM ホールで授業

大分大学高等教育開発センター

1

とよまなびコンソーシアムのおおいた

## 大分の人と学問

後期 全15回2単位 担当教員: 副学長 望月 聡

大分県内の大学・短期大学・高等専門学校の教員達が、大分の地に根差したバラエティ豊かな学問分野を紹介することで、大分に関する教養を深めていくことを目的としています。

通学しなくてもネット受講 無料バスあり

- オリエンテーション 大分大学 鈴木雄博
- 今よみがえる田原淳の業績 大分大学 島田達生
- 宗廟時代の南蛮音楽 大分県立芸術文化短期大学 小川伊作
- 『関あじ・関さば』を科学する 大分大学 望月聡
- 人間力概論—地域社会と人間力 日本文理大学 吉村充功
- 七島蘭プロジェクトと農工連携についての取組 大分工業高等専門学校 小西成司・松本佳久・菊川裕規・尾形公一郎
- GNT企業へ脱皮した設備機械メーカーの成功要因と中小・中堅企業が目指す方向性 立命館アジア太平洋大学 中山晴生
- 大分に縁のある人物・協同学習の意義 大分大学 鈴木雄博
11. 対面授業 (グループワーク) 大分大学 教野浩敏・鈴木雄博
- グローバル・リーダーのための交渉・コミュニケーション術 立命館アジア太平洋大学 島田久仁彦
- 火山と草原と九州 別府大学 都留賢司
- 九州考古学の先達—鏡川光夫先生の人と学問 別府大学 下村智・清水宗昭
- 大分県の中の朝鮮半島 別府瀬部学園短期大学 瀧部仁

初回の授業や集中授業等の詳細情報

集中授業 11月18日(木) 予定 2~4限目(3コマ) 大分大学図書館ラーニング commons

◆受講評価 電子掲示板へのレポート課題投稿と相互コメント (36%)、小テスト (24%)、対面授業課題 (15%)、最終課題 (25%)

2

日本文理大学 大分の地域ブランド創造体験

後期 全15回2単位 担当教員: 工学部教授 吉村充功、他

～合宿研修～ 農村漁村や中山間地域における特産品の6次産業とそのブランド化は、持続可能で活力ある大分県を實現する上で不可欠です。本体験では、こうした問題を解決し「地方創生」できる人材を育成する足掛かりとして、地域ブランドを掘り起こすための力と企画力の育成を目的とします。

おおいだ共創土 認証制度 無料バスあり 宿泊あり

(合宿1回目初日)  
1. 授業の目標に向かってのテーマ設定と授業展開づくり  
2. 地域体験活動1-1  
3. 地域体験活動1-2  
4. ワークショップ (初日振り返り)

(合宿1回目2日目)  
1. 地域体験活動2-1  
2. 地域体験活動2-2  
3. ワークショップ (2日目振り返り)  
4. 中間発表①、2回目に向けてガイダンス

(合宿2回目初日)  
1. 個人発表、統合プランの検討  
2. 中間発表②  
3. 地域体験活動3  
4. 6次産品の企画書作成

(合宿2回目2日目)  
1. 6次産品の企画書作成 (前日の続き)  
2. 最終成果発表と講評  
3. 振り返り

集中授業 2月~3月の春休み期間中 (1泊2日×2回の宿泊型) 国東市

【道の駅でのヒアリングの様子】  
1. 2年生 (高専は4・5年生) の受講を優先します (定員15名)。  
・研修宿泊費は無料です。食費 (8食) のみ実費負担です (5,000円程度)。  
・無料バスを運行予定です (往復)。  
※乗車可能予定場所: 日本文理大学・大分大学・大分駅・別府北浜  
・「ジェネリックスキル獲得1」(ジェネリックスキル養成2)「大分の地域資源」「初年度地域キャリアデザインワークショップ」のいずれかをあらかじめ履修もしくは同時履修することをお勧めします。

【ワークショップの様子】

◆成果評価 ①最終: 表現・コミュニケーション ②思考・判断・創造  
上記の観点で、課題の目標や提案等の資料及びプレゼン資料、道の駅課題解決のための提案とその内容、振り返りレポートフォリオ、中間発表、最終発表から評価します。

3

## 大分大学 初年次地域キャリアデザインワークショップ

前期 全15回2単位 担当教員: 教授 牧野浩敏 別府大学文学部教授 西村靖史、他

初年次学生を主な対象とする本授業では、「大学教育での学びのステップを自分自身で身につける」ことをねらいとしている。また、その学びの中で「大分」を教科として、大分地域での就業意識を醸成することも目的である。それぞれの大学・分野で学ぶ学生たちが、自らの将来を見据えて、地域の現状理解と地域で働く意欲を学ぶことで、より安心して地域へ定着し、新しい地域社会の創造に貢献する人材となることを目指す。

合同学習  
大分大学  
(臼野館キャンパス)  
対象: 1年生・2年生

1. 各大学等で、eラーニングでの動画視聴を主としたガイダンス。  
※受講生には事前に大分大学eラーニングシステムのIDを発行します。  
2~4. eラーニングでの動画視聴により、大分での働く魅力、地域社会や企業が抱える目標や課題、大学等での学び方を個人学習し、大分での就職を前提としたディベートのための資料を準備する。  
5~8. (1回目の合同学習) 収集した各種情報から大分での就職することのメリットとデメリットを整理し、様々な形態でグループワークを行う。  
9~12. (2回目の合同学習) 若手社会人を変えたディベートやワールドカフェ、グループ討議を行い、大分県で就職することの魅力と課題を研究し、プレゼン資料を作成する。  
13~15. (3回目の合同学習) 若手社会人を変えた、大分の魅力や地域課題を基にした大分での就職についてまとめたプレゼンテーションをとおして、大学での学びのあり方を提案して意見交換を行う。

一授業日程一  
1 コマ: 各大学等で実施  
2~4 コマ: eラーニングでの個人学習  
5~15 コマ: 合同学習  
(合同学習日程)  
1 回目: 6月23日(日)  
2 回目: 6月29日(日)  
3 回目: 6月30日(日)  
※予備日: 6月22日(土)

◆成績評価  
LMSへの課題提出(20%)、グループ学習への貢献度(20%)、「学びの足跡」への記述(20%)、最終課題の提出(40%)

4

## NBU 日本文理大学 ジェネリックスキル養成 1

前期 全8回1単位 担当教員: 工学部教授 吉村充功

～合同研修～  
野外活動をベースとした体系的な活動を通じて、自己の理解と挑戦、他者への理解や役割、チームとして課題に立ち向かうことの重要性を学び、コンピテンシー能力を高めていきます。

第1回 オリエンテーション、チーム編成  
第2回 アイスブレイク  
第3回 ローエLEMENT研修(1)  
第4回 ローエLEMENT研修(2)  
第5回 初日のふり返り(ピーニング)  
第6回 ローエLEMENT研修(3)  
第7回 ローエLEMENT研修(4)  
第8回 リフレクション(ふり返り)・全体総括

集中授業  
9月中旬の平日(1泊2日)  
住吉浜リゾートパーク(杵築市)  
<http://www.sunryoshihana.com>

◆成績評価  
①関心・意欲・態度 ②技能・表現・コミュニケーション ③思考・判断・創造  
上記の観点で、成果物(ふり返り資料)とレポート、チーム活動での貢献度等から評価します。

5

## NBU 日本文理大学 ジェネリックスキル養成 2

後期 全8回1単位 担当教員: 工学部教授 吉村充功、経営経済学部准教授 鈴木永夫

～合同研修～  
地域課題に対しチームで課題発見、解決策を考えるワークショップです！  
他大学等の学生と一緒に知識を活用して問題解決する力を養成するとともに、大分について考えるきっかけになります。

1. オリエンテーション、チーム編成  
2. 資料の読解、共有(情報分析)  
3. ディスカッション(1)(課題発見)  
4. ディスカッション(2)(解決策の構想)  
5. プレゼンテーション準備  
6. プレゼンテーション(1)  
7. プレゼンテーション(2)  
8. リフレクション(ふり返り)・全体総括

集中授業  
2月中旬頃(1泊2日)  
日本文理大学 湯布院研修所(由布市)  
<http://nbu.co.jp/yufuin/>

◆成績評価  
①関心・意欲・態度 ②知識・理解 ③技能・表現・コミュニケーション ④思考・判断・創造  
上記の観点で、成果物(レポート・資料)とプレゼンテーション、ワークショップでの貢献度等から評価します。

6

## 大分県立看護科学大学 総合人間学

後期 全10回1単位 担当教員: 看護学部教授 藤内美保

～大学教育の集大成～  
人間として、または医療従事者として備えておくべき豊かな知性と感性を養う。

【2019年度実施予定】  
以下の第1回～第8回のテーマ、講師は2017-2018年度のもので、2019年度のテーマと講師は、現在検討中です。

第1回 ダイバーシティマネジメントができる優秀な人材育成  
社会医療法人 敬和会 総務部長兼 総務企画室長 栗秋 良子  
第2回 空間デザインからみた地域創生のためのまちづくり  
日本文理大学工学部建築学科 教授 近藤 正一  
第3回 みんなで支える明日の社会  
長崎大学大学院工学研究科 教授 石松 隆和  
第4回 オモイをカタチに～学生の力を被災地につなぐ～  
日本福祉大学福祉経営学部医療・福祉マネジメント学科 准教授  
防災支援教育研究センター副センター長 山本 克彦  
第5回 『声のコミュニケーション』～声のデラマで自信をつけよう～  
CareerVoice® 山崎 美和  
第6回 『ひとりぼっちをつくらぬ地域を一性的少数者の1人として～』  
LGBTサポートチームコーディネーター 共同代表 員 若希  
第7回 『災害は忘れる暇なくやってくる～防災情報の正しい理解と利用を～』  
救急士補士・防災アドバイザー・訓練教育アドバイザー(元大分県安芸台) 花宮 廣希  
第8回 『広瀬深窓の心と教えを暮らしに活かす』  
廣瀬資料館館長 中島 龍雄  
第9回、第10回  
(収録済みの総合人間学の講義の中から、関心のあるテーマを選び受講)

◆授業概要 様々な分野で活躍し、かつ造詣の深い講師の方々をお招きします。  
◆成績評価 受講態度、レポートにて評価します。  
◆注意事項 平成30年度より全10回で1単位となります。

7

## 大分大学 大分の地域資源

後期 全15回2単位 担当教員 准教授 鈴木雄清

豊富な地域資源を通して大分の特長や魅力を学び、大分についてさらに学んだり、大分の地域資源を体験したりしようとするを目的としています。

【eラーニング授業】

1. オリエンテーション
2. 別府竹細工 油布 昌季氏 油布 留氏
3. 別府八湯温泉道 別府市観光協会 堤 崇一郎氏
4. 国家の七島船 くにさき七島船運協会事務局長 船田 利彦氏 くにさき七島船運協会 船富 廣弘氏 七島船工房ななつぎ 岩切 平佳氏
5. 臼杵漆産伝 臼杵市歴史資料館館長 菊田 敬氏
6. 大分の農業（カボス栽培） カボス農家 工藤 勝子氏・工藤 高壽氏
7. 大分の農業2（しいたけ栽培） 国東森林組合理事 清原 米藏氏
8. 大分と吏焼酎 藤原醸造合資会社 藤原 淳一郎氏
9. 豊後高田市の昭和の町 豊後高田中高工設光輝館研究員兼後援室室長 水田 健二氏 豊後高田市観光まちづくり株式会社 日浦 勝彦氏
10. 大分について概観する、協同学習について

【集中授業】

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.

グループによる協同学習など (9:00～18:00)

初回の授業や集中授業等の詳細情報



集中授業 (5コマ) 11月30日(土) 大分大学教養教育棟2F27号 (巨野館キャンパス)

◆成績評価 電子掲示板へのレポート課題投稿と相互コメント (24%)、小テスト (18%)、調査学習課題 (16%)、グループ活動成果物 (12%)、最終課題 (30%)

## 大分大学 知的財産入門

後期 全8回1単位 担当教員 産学官連携推進機構 知的財産部門長・教授 井澤士 富田賢司

大分は「一村一品運動」や、早くから地域団体商標を登録するなど、知的財産に対する取り組みに力を入れています。また、私たちの身の回りにはたくさん知的財産が存在しており、これからの時代には知的財産に関する知識と、その活用方法などを知ることが重要になります。実際の事例を題材に、知的財産を楽しく学んでみましょう。

【1日目】

1. 知的財産と知的財産権
2. 特許
3. 特許情報
4. 発明とは？

【2日目】

5. 意匠とデザイン
6. 商標とブランド
7. 著作権、不正競争防止法
8. 知的財産に関する疑問・質問




集中授業 日曜日(木定) J.COM ホルトホール大分 サナイトキャンパス おおいたい講義室

知的財産は決して難しい「学問」ではありません。身近なことから知的財産をみつけながら楽しく理解をしてゆきます。受身の講義ではなく、受講者でディスカッションをしたり、質問をしたりしながら講義をすすめていきますので、積極的に参加して下さい。

◆成績評価 小テスト (50%)、最終レポート (50%)

## 大分大学 国際健康コンシェルジュ養成講座

前期 全8回1単位 担当教員 医学部准教授 大下陽美、他

病気・外傷等に罹患した訪日観光客に対し、速やかな応急処置と重症度の判断が可能となる医学的知識を学びます。それを踏まえ、病院、ホテルなどで使用する英語、中国語の基本的表現を学び、想定される場面への対応を選択することができる語学力の習得を目的とします。

【1日目：6月22日(土)】

1. 「科学と医学」に関する基本的な知識を得る。
2. 成人によくある病気に関する知識を得る。
3. 婦人科疾患と産科疾患の知識を得る。
4. 心肺蘇生法（胸骨圧迫、人工呼吸）やAEDを用いた除細動による一次救命処置の手順を習得する。

【2日目：6月23日(日)】

5. 体調を崩した訪日観光客に呼びかけ、応答する基本的英語表現を知り、発話練習を行う。
6. 日本人が国外で体調を崩した時に、ホテル、公共交通機関、病院などで使用する基本的英語表現を知り、発話練習を行う。
7. 中国語の発音規則と発音の仕方を学び、その発音練習を行う。
8. 体調を崩した訪日観光客に呼びかけ、応答する基本的中国語表現を学び、発話練習を行う。




◆成績評価 各講義の課題 (50%)、各講義の発表 (50%)

平成31年度 各大学等が提供する単位互換科目一覧【前期】

大学名	科目名	履修 単位数	担当教員 単位数	開講学年	対象学年	備考	履修可否
大分県立芸術文化短期大学	音楽・創造心講座	履修 3	吉田 2	5	2		●
	歴史地理地づくり論	履修 3	空野 2	5	2		●
	大分の観光と文化	履修 3	豊谷・池 2	10	1-2	オムニバス形式	●
大分工業高等専門学校	有機化学	履修 3	軌野 2	4	3-4		●
	理学概論	履修 3	豊 2	3	1-4		●
大分短期大学	マーケティング概論	履修 2	池田 2	10	1-4		●
	経済学を学ぶ	履修 2	鹿見 2	8	1-4		●
	経済統計を学ぶ	履修 2	西村 2	10	1-4		●
	企業戦略概論と消費行動の行動	履修 3	宇野 2	10	1-4		●
	日本のマネジメント	履修 2	加納 2	10	1-4		●
	社会福祉概論	履修 2	吉田 2	10	1-4		●
	大分県発展戦略	履修 2	杉本 2	10	1-4	Moodleと動画配信による遠隔授業 (9コマ)、対面授業 (6コマ)	●
	経営学概論	履修 2	藤田 2	10	1-4		●
	コンピュータ科学入門	履修 2	藤井 2	10	1-4		●
	環境社会学	履修 2	西川・堀 2	10	1-4		●
	統計学I(初級)	履修 2	西村 2	10	1-4		●
	統計学II(中級)	履修 2	杉本 2	10	1-4		●
	統計学III(応用)	履修 2	杉本 2	10	1-4		●
	前期学域キャリアデザインワークショップ	履修 2	教野・池 2	11	1-2	ガイダンス、授業配信、自習学習 (全16コマ)、大分大学学域中期評価日6月22日(土)	●
	国際健康コンシェルジュ養成講座	履修 2	大下・豊 2	10	1-4	講義2日課(6コマ)、大分大学で講義、土日で集中、日本語(16コマ)	●
日本文化大学	ジェネリクススキル養成1	履修 1	吉村 1	20	6	講義・実習2日課(6コマ)、在学中1日2コマ、夏期休業中(9月)中国語の学習に実施	●
別府県短期大学	観光学入門	履修 1	赤木・松 1	20	1-4	講義(16コマ)、社会人受け入れ	●
	観光コンシェルジュの基礎	履修 2	中川・松 2	20	1-4	講義(16コマ)、フィールドワークあり、グループワークあり、社会人受け入れ	●
	別府の歴史と観光	履修 2	安達・松 2	20	1-4	社会人受け入れ	●
	英語学	履修 2	宮崎 2	10	1-4	フィールドワークあり	●
	まちづくりと観光	履修 2	池野 2	10	1-4	フィールドワークあり	●
	おもてなしの心を学ぶ	履修 3	木本 2	20	1-4	社会人受け入れ、グループワークあり	●
山崎大学	日本の経済史	履修 2	平田 2	5	1-4		●
	アジア太平洋の文化と社会	履修 2	金 2	5	1-4		●
山崎大学	観光学入門EB	履修 2	EUR・THOMAS・池田 2	5	1-4		●
	観光学入門JA	履修 2	池田 2	5	1-4		●

【後期】

大学名	科目名	曜日	授業時間	単位	担当教員	開講学年	開講回数	備考	履修
大分県立看護科学 大学	総合人間学	9～ 11月 第1	療育	1	10名程度	1～4	web視聴、レポート提出(全10回)、 web視聴は10回以上視聴予定	●	●
大分県立芸術文化 短期大学	創作表現	第1	習俗	2	5	1～4		●	●
大分工業高等専門 学校	社会学概論	第2	応用山	2	4	3～4		●	●
大分短期大学	哲学概論II	第2	協	2	3	1～4		●	●
大分短期大学	憲法第2回	第2	小沼	2	10名程度	1～4		●	●
大分大学	会社法入門	第1	秋	2	10名程度	1～4		●	●
	企業経営と会計	第2	加藤	2	10名程度	1～4		●	●
	知的財産入門	第1	高橋	1	10名程度	1～4		●	●
	地域に科する仕事と社会	第1	石井	2	10名程度	1～4		●	●
	次世代からみた地域社会	第2	大井	2	10名程度	1～4		●	●
	大分の人と学問	第1	望月・池	2	10名程度	1～4		●	●
	大分の地域資源	第1	藤本	2	10名程度	1～4		●	●
	学習意欲の心理学	第2	藤本	2	10名程度	1～4		●	●
	人々の知的遺産と向き合う	第3	笠野	2	10名程度	1～4		●	●
	歴史と法	第2	藤野	2	8	1～4		●	●
日本文化大学	大分の地域ブランド創造体験	第1	吉村・池	2	15名程度	1～4		●	●
	ジェネリクススキル養成2	第1	藤本 (第) 吉村	1	30名程度	1		●	●
	コミュニケーション演習	第3	山本・池	2	5	1～4		●	●
短期大学	記簿学	第3	江藤・池	2	5	1～4		●	●
	山科学	第1	藤野	2	30	1	一部公開	●	●
	音楽学概論	第2	藤本	2	10	1	メールでワークあり	●	●
短期大学等短期 大学	温泉コンシェルジュ演習	第1	安達	2	5名程度	1～4		●	●
	温泉地帯復興指導	第5 (学年)	初田	2	5名程度	1～4		●	●
	温泉地帯復興トレーニング	第2 (学年)	佐田	2	5名程度	1～4		●	●
	大分学	第4	藤本	2	20	1～4		●	●
	温泉文化と活用	第2 (学年)	安達	2	5名程度	1～4		●	●
温泉コンシェルジュ応用	第1	坂田	2	5名程度	1～4		●	●	

「副」…大分を創る人材を育成する科目  
「並」…とよのまなび「コンソーシアム」においた単位互換科目  
(平成30年度提供科目を記載しています(更新予定))

最新の情報はウェブページから  
<https://www.he.ocha-u.ac.jp/tg/>



お問い合わせ先  
所属大学等の教務担当窓口

## 2. FD・SDに関連する事業

本年度にセンターが企画、実施あるいは支援した研修会・講演会は以下のとおりである。その中で、センターが主体的に実施した研修会、講演会について詳細に報告する。

	日 程	題 目
1	4月26日	新任教員 FD 研修会「大分大学の教育」
2	6月18日	学生のメンタルヘルス講演会（保健管理センター共催）
3	6月29日～ 7月1日	ティーチングポートフォリオ作成 ワークショップ
4	7月18日	Moodle 活用編—小テスト作成を中心に
5	7月24日	学修ポートフォリオと教育の質保証
6	8月1日	COC+大分県内大学等合同 FD/SD 研修会
7	8月～9月	2018 教務情報システム説明会
8	10月17日	第1回学生支援研修会「大学生のメンタルヘルス」
9	10月31日	授業デザインシラバス作成ワークショップ
10	11月～1月	2018 年度後期教員相互の授業参観 (FD)
11	12月5日	きつちよむフォーラム 2018「正課外活動での学生および教職員学生の主体的な学び」
12	12月19日	Moodle 研修会（活用編）—小テスト作成を中心に—
13	12月19日	柔軟な学事暦 クォーター制の導入について
14	2月19日	Moodle 研修会（活用編）— 小テスト作成を中心に—
15	2月22日	大分合同 FD・SD フォーラム
16	3月8日	FD 講演会「ICT 活用教育の歩みと展望」

### ① 新任教員 FD 研修会「大分大学の教育」

日 時：平成30年4月26日（木）14：50～16：20

講 師：副学長（入試・教育改革担当）望月 聡

高等教育開発センター 牧野治敏・鈴木雄清

場 所：旦野原キャンパス教養教育棟2階 高等教育開発センター室1

概 要：

本学の新任教員を対象に、大分大学の教育についての FD 研修会を開催した。本学の沿革や、教育に関する基本情報をはじめ、本学が全学で取り組んでいる教育や、教育改

善活動の概要を紹介した。また、参加者間の意見交換により、疑問点や悩みの解消、教育課題の解決への示唆を得た。

参加者

所 属	参加者数
理工学部	1名
福祉健康科学部	1名
高等教育開発センター	1名

② 学生のメンタルヘルス講演会（保健管理センター共催）

日 時：平成 30 年 6 月 18 日（月）13：10～14：40（3 限）

タイトル：こころの不調・こころの病気～出会った人たちから学んだこと～

講 師：別府大学文学部特任教授 大分県臨床心理士会理事 大嶋 美登子

場 所：教育学部第 1 会議室（旦野原）

看護学科校舎棟 222 講義室（挟間キャンパスは遠隔配信システムによる）

参加対象：本学の教職員および学生

概 要：

メンタルヘルス（こころ・精神の健康）について、WHO、精神疾患の診断統計、昔の考え方、今の考え方などの概要が説明された。こころの病気にも流行があり、社会を映し出す鏡でもあるとの説明があった。

次に、講師が関わった人々から学んだこととの視点から、高齢者と若者のメンタリティとして、特別養護老人ホームでの経験、不登校の生徒へのカウンセリング、大学生への対応など具体的な事例が紹介された。これから先の社会が不安であり、鬱病が増えているなど、社会のストレスが増しているのではないかとの、見解が解説された。

そして、心の健康を保つためにストレスの正体とストレスマネジメント、ストレス対処の戦略が紹介され、最後に心の健康を保つための 10 の方法が提案された。

参加者

所 属	参加者数
教育学部	4名
教職大学院	1名
経済学部	1名
医学部	8名
附属病院	1名
理工学部	16名

福祉健康科学部	1名
医学・病院事務部総務課	5名
総務部挟間男女共同参画推進室	1名
学生支援部学生支援課	2名
学生支援部教育支援課	3名
財務部	1名
総務部人事課	2名
研究・社会連携部学術情報課	5名
保健管理センター	6名
国際教育推進センター	1名
高等教育開発センター	3名
社会人聴講	1名

③ ティーチングポートフォリオ作成 ワークショップ)

日 時：平成30年6月29日（金）～7月1日（日）

場 所： 高等教育開発センター室

講 師：佐賀大学工学部教授

高等教育開発センターティーチングポートフォリオ部門長 皆本晃弥氏

概 要：

ティーチング・ポートフォリオのフル・バージョンを、日本でのティーチング・ポートフォリオの標準型を提案した栗田佳代子氏（東京大学教授）の手法に従って作成した。

参加者は当日までにスタートアップシートを作成し、指示された根拠資料を持参し、作成作業に取りかかった。全課程修了者には修了証を発行した。作業日程を下の表に示した。

ワークショップの日程（3日間） 指示のない時間帯は作成作業

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
1日目					昼食 & ミーティング	オリエンテーション	メンタリング		メンターミーティング		夕食 & 情報交換会				原稿締め切り 22:00
2日目		メンターミーティング	全体へのコメント	メンタリング	昼食	メンターミーティング				メンタリング(任意)	夕食	よりよいメンターになるために			原稿締め切り 22:00
3日目		メンターミーティング	全体へのコメント	メンタリング	昼食	メンターミーティング	プレゼンテーション&ワークショップの振り返り&修了式								

参加者

所 属	参加者数
全学研究推進機構	1名
高等教育開発センター	1名
医学部	1名

④ 教務情報システム説明会（FD研修会）

教務情報システムの刷新に伴う使用説明会を、各学部で下記の日程で実施した。  
講師は IT 活用部門部門長 鈴木雄清が担当した。

所 属	実施日	参加者数
教育学部	9月4日	13名
	9月28日	5名
経済学部	9月5日	33名
医学部	8月29日	13名
	9月3日	16名
理工学部	9月3日	20名
	9月28日	31名
福祉健康科学部	9月12日	23名

アンケート「総合評価の回答の理由」の記載事項

<教育学部 9/4>

- ・資料が詳しく準備されており、ご説明も分かりやすく、どのように変更がなされるのか、よく理解できました。
- ・短時間で効率的な内容でした。
- ・変更の内容が学生にも周知徹底されることが必要。また、操作のノウハウ（How to）が動画配信されると、全学で徹底できるのではないか。（以上は Campus Square の取り扱い）
- ・教務情報システムの変更点に関する説明をさらに時間をかけていただけるとありがたかったですが、全体的にポイントをおさえて明快に解説いただいたので、満足しています。
- ・提示資料・配付資料がわかりやすかったことも助かりました。
- ・変更点&趣旨がよくわかった。
- ・簡潔な説明でした。
- ・教務情報システムの変更点がよく理解できた。

・シラバス作成の手引きが便利そうである。

<教育学部 9/28>

- ・FD 内容について、満足するというより、どのくらい理解できたかについては、回答できる…システムの変更点については、おおよそ理解できた。
- ・やらざるを得ないことが具体的に分かったから。
- ・シラバスの変更点について理解できた。
- ・予備的知識を得られた。
- ・要点を絞っていただいた説明でした。資料もありがとうございました。

<経済学部 9/5>

- ・学部の事情に合わせた柔軟な運用方法が確保されていないから。
- ・シラバスの改定の意義自体にやや疑問あり…。入力するという操作の上では役に立ったかなと思います。
- ・シラバス項目が細くなる事について改定路線になってしまっていたので、戸惑いを感じました。
- ・今後の対応が分かりました。
- ・会議（トータル 4 時間近く）の後で、予定が入っていたので、スケジュール的に厳しかったため。
- ・短時間で適切な内容であった。
- ・説明が聞きやすく、大変分かりやすかった。シラバスの入力がよく理解できた。
- ・分かりやすい内容・説明でした。
- ・概要を理解しました。
- ・概要は分かりましたが、評価など細かいところをかなり考える必要があるように思いました。
- ・事前説明会が無ければ、成績入力時にしかログインしなかったと思うので、事前に面倒くさそうなことが分かり良かった。
- ・適切で明確な説明で大変良く理解できました。ありがとうございました。
- ・時間的には、ちょうど良いかもしれないが、その分、内容が大雑把になってしまっている。もう少し具体的に知りたい。
- ・記入するにあたっての参考となるため。
- ・シラバスの書き方がよくわかったので。
- ・資料が理解しやすかった。
- ・新しくなったシステムについて要約されていた。
- ・説明が簡潔かつ分かりやすかった。
- ・直観的に操作できないため、FD として実施する必要性が理解できない。
- ・複雑、難解な新シラバスシステムにつき、大変明瞭かつ短時間で解説して頂き非常に有益だった。

- ・分かりやすく端的に説明ありがとうございました。
- ・手引きを読めば使えるので。
- ・丁寧な説明をいただきありがとうございました。
- ・新システムの変更点を画面を見ながら示してくださったこと。また、シラバス様式が変更になることをはじめて知りましたが、具体的な内容をお話しいただいたので。
- ・時間が短かったので。(経済学部の都合かもしれませんが) 10/31 に可能ならば参加します。

#### <医学部 8/29>

- ・今回の説明は分かりました。
- ・説明が分かりやすかった。
- ・簡潔で分かりやすい説明だった。(2人)
- ・要点を簡潔に説明されたこと。また、見直す時も分かりやすい様に、資料には詳細に記述されていること。
- ・コンパクトにご説明いただいて大変ありがたかったです。ありがとうございました。
- ・重要な変更なのかもしれないが、シラバスに偏り過ぎていたから。

#### <医学部 9/3>

- ・今回は、How to でしたが、まず基本的説明として配付された FD 研修会のような「授業デザイン」等の講演を受講する方が効果的だと思います。
- ・現在、Campus Square を使うような業務をしていないので、分かりにくところがあった。  
→イメージがつきにくいという状況です。
- ・シラバス作成したことがなかったので、当面の作成に役立つ内容だと思った。
- ・看護学科では 2018 年度に取り組んでいたもので、理解できました。
- ・資料、説明ともにわかりやすい。
- ・分かりやすい説明で資料も役立ちました。
- ・確認したいことが分かりやすく説明されたこと。資料化されていること。
- ・おおまかにはご説明いただいて分かりました。細かな点は、変更が多くて実際にやってみないと分かりませんね。
- ・シラバス様式はすでに 2018 年度施行のものと同じであったので、昨年度聞いておきたかった。

#### <理工学部 9/3>

- ・使っていないので教務情報システムの具体的画面が分からなかったので何とも言えない。
- ・シラバスの記述については、意味のある内容だったが、教務情報システムの説明は特に必要とは思えない内容だった。
- ・既に使用しているので参加しなくても分かっていることが多い。シラバス等はやってみないと分からないので、以後、質問の必要あり
- ・エッセンスのみの説明のため、時間が短いため内容が少ない。

- ・説明が駆け足で、特にシラバス作成の説明については時間が不足しているように感じた。
- ・資料のわかり易くまとめられていたと思います。
- ・シラバスの開設、配付資料が分かりやすかった。
- ・変更点・新機能を中心に簡潔にまとめた内容だった。
- ・変更点にしぼったないようでしたので。
- ・変更点について充分把握することができました。
- ・操作マニュアルの所在等の説明が欲しい。
- ・ほぼ理解できた。

<理工学部 9/28>

- ・内容は良かったが、時間超過したため。
- ・能力開発ができた。
- ・シラバス作成についても簡潔に触れてあり、非常に分かりやすかった。
- ・文科省対応欄が増えたことがよく分かった。システムの変更点についてはよく分かったが思っていた内容と違った。
- ・事務側で出来たことが教員側でも出来るようになったこと。
- ・実際にシステムを使用、シラバスを作成していないので、よくわからないが、使用する場合にはちゃんと使えそう。
- ・シラバスの様式変更の説明を受けるとは思っていなかった。しかし、心の準備にはなりません。
- ・教務情報システムの変更点がわかった。
- ・新しいシラバスなどの内容が書き方について分かりやすく説明してもらい良かったと思います。
- ・新機能についてよく分かった。
- ・参加して良かったと思うから。
- ・適当なボリュームで理解しやすかった。
- ・実際に書いた後にしてもらった方が良かった。
- ・変更点がまとめてプリントで説明されたから。
- ・システムを使ったことがないので、理解しにくかった。
- ・資料も説明も分かりやすく、今後役立ちそうだと思います。
- ・教務情報システムでこれまでと変わった点やシラバスの変更点が分かりやすかった。

<福祉健康科学部 9/12>

- ・何故これをやる必要があるのか説明が欲しい
- ・FDにわざわざする意味がよく分かりません。
- ・シラバスの作成に役立つと思う。
- ・分かりやすくご説明いただき、ありがとうございました。
- ・内容は分かりやすいですが、シラバス変更については、必要性がどれ程あるのか分かり

ませんでした。

- ・布施さんの説明が丁寧で分かりやすかったです。鈴木先生もいつもご苦労様です。
- ・丁寧にご説明いただき、ありがとうございました。
- ・内容が多少なりとも理解できたので。
- ・実施、使用するのに、事前説明があると利用しやすい。
- ・確認できた。
- ・簡潔な説明で良かった。
- ・実際に作業をするときに、分からないことが出てくると思うので、マニュアルをウェブ上に UP していただければと思います。
- ・分かりやすい内容でした。
- ・変更点のみの説明で良かったです。
- ・前段、後段とも最小限の内容にとどめ、スピード感のある進行であったため、最後まで集中して臨むことができた。

アンケート「その他」への記載事項

<教育学部 9/4>

- ・本日はありがとうございました。10/31のFD研修会にも可能であれば出席したいと思います。

<教育学部 9/28>

- ・内容・評価を詳しくする、記述するためには、受け持ちの科目については、精通しているかと作業は難しくなると思う。
- ・教育学部では、教員免許取得に関する科目がほとんどであるため、これまでもシラバスで科目を選択して履修する学生はほとんどいない。これからもシラバスを確認する学生は増えるとは思えず、このようにさらに細かくなると仮に見た学生もDPなど気にして、“評価のために学習する”という姿勢が良いとは個人的には思えない。
- ・授業の計画を立てて実施するのは当然と思いますが、学生の実態に合わせて授業が始まってから調整する必要があることも多いです。学生との合意があれば、シラバスの内容とは異なる授業もしてよいのかどうか考えさせられました。

<経済学部 9/5>

- ・16時より来客のため、退席させて頂きました。
- ・シラバス検索でいつも数度、検索失敗し、イライラすることが多い。科目名が分かっているのに、検索できない時があった。
- ・今後ともよろしく願い申し上げます。
- ・資料を読みながら話すと、聞きにくいです。
- ・シラバスで記入する項目がどんどん細かくなり、大変だなと思いました。

<医学部 8/29>

- ・eラーニングシステムとの整合性が必要だと思います。いくつもシステムがある、ダブりもあり、学生にとっても教員にとっても経費の面でもよくないと思われるから
- ・画面のコピー（PC版）が全く見えませんでした。

<医学部 9/3>

- ・システム構築上のやりとりは、関連部門で事前に行っていく方がよろしいのではないのでしょうか。本FDの本来の目的とは少しずれるように思いました。
- ・キャンパススクウェアのIDを持ってない？（成績入力していない人）にとっては、分からない内容であったと思う。自己申請しなければ、IDを得られないことは今まで分からず入職時不便だった。

<理工学部 9/3>

- ・詳しい説明の際にしっかり聞きたいと思います。

<理工学部 9/28>

- ・シラバスで到達目標と評価方法を明確にし、エビデンスを示す必要があるにも関わらず、中間試験が1コマとして認められないのはおかしいと考えます。

<福祉健康科学部 9/12>

- ・これ、本当にできるのでしょうか？
- ・シラバスに関しては、毎年とっていいほど、フォーマットが変更されたりして、教員の負担が加重になる。

#### ⑤ Moodle 活用編—小テスト作成を中心に—

日 時：平成30年7月18日（水）

場 所：教育学部棟情報システム室D

テーマ：Moodle 研修会（導入編）

講 師：高等教育開発センター准教授 鈴木雄清

参加者

所 属	参加者数
教育学部	1名
経済学部	1名
理工学部	4名
福祉健康科学部	2名
国際教育研究センター	1名
学術情報拠点	1名

⑥ 学修ポートフォリオと教育の質保証

日 時：平成 30 年 7 月 24 日（火） 18：00～19：30

場 所：挟間キャンパス看護学科棟 2 階 211 講義室

タイトル：e ポートフォリオシステムを活用した看護学教育

ーシステムの概要・教員体制づくりと今後の課題ー

講 師：東京慈恵会医科大学 医学部看護学科 梶井文子 教授

対 象：学修ポートフォリオ・看護教育に関心のある方

概 要：

東京慈恵医科大学の概要についての説明の後、e ポートフォリオの概要、活用の実際、教員体制づくり、今後の課題について資料をもとに講演が行われた。取り組みは平成 22 年度文部科学省大学教育推進プログラム「学生一人ひとりをそだてる学修評価システム」であるが、前年度から紙ベースでのポートフォリオが導入された。学生自身が自らの学習を管理、リフレクションすることで目標到達へ導くシステムである。科目横断総合試験が特徴であると感じられた。また、知識だけでなくスキルについても蓄積できるシステムである。看護学科 e ポートフォリオ賞が設定されている。教員組織としては責任を明確にするための委員会組織が構成されている。今後に向けては教員の意識改革、学生へのディプロマポリシーの意識づけの強化が指摘された。

参加者

所 属	参加者数
医学部	51 名
副学長	1 名
高等教育開発センター	3 名
学生支援部教育支援課	2 名
産業医科大学	1 名
山口大学大学教育センター	1 名
別府大学附属看護専門学校	1 名

⑦ COC+大分県内大学等合同 FD/SD 研修会

日 時：平成 30 年 8 月 1 日（水） 13：30～17：15

場 所：挟間キャンパス 看護科学棟 211 講義室

場 所：旦野原キャンパス教養教育棟 3 階 35 号教室

挟間キャンパス病院第 1 会議室（1 部講演のみ）

第 1 部：講演 13：30～15：30

演 題：鹿児島大学の COC/COC+事業と「地域人材育成プラットフォーム」の展望

講 師：鹿児島大学総合教育機構 高等教育研究開発センター 出口 英樹 准教授

第 2 部：座談会 15：45～17：15

テーマ：「地域人材育成プラットフォーム」の構想から運営までの課題について

概要：

学長のガバナンスの基，教育改革を進めてきた鹿児島大学の COC+事業の取り組みについて「地域人材育成学生の学びのプログラムである「地域人材育成プラットフォーム」の構想とその運営のための「総合教育機構」の設置など，鹿児島県における COC+事業の取り組みについての講演を行った。

参加者

所 属	参加者数
教育学部	1名
経済学部	1名
医学部	1名
理工学部	3名
監事	1名
全学研究推進機構	1名
COC+推進機構	4名
学生支援部教育支援課	4名
研究・社会連携部国際交流課	1名
高等教育開発センター	3名
石井工作研究所	1名
大分県立芸術文化短期大学	2名
大分短期大学	4名
日本文理大学	9名
別府大学	4名
別府溝部学園短期大学	1名

⑧ COC+大分県内大学等合同 FD/SD 研修会

日 時：平成 30 年 10 月 31 日（金）16：30～18：00

場 所：教育学部第 1 会議室

テーマ：授業デザイン・シラバス作成ワークショップ

概 要： 1. シラバス様式の変更について 越智義道（理事（教育担当））

2. 授業設計・シラバス様式の記入方法の説明  
牧野治敏・鈴木雄清（高等教育開発センター）

3. シラバス作成のワークショップ

参加者

所 属	参加者数
教育学部	1名
経済学部	2名
理工学部	3名

⑨ 大学教員のための FD 研修会（ワークショップ）

日 時：平成 29 年 11 月 2 日（木）13：00～17：45

場 所：J:COM ホルトホール大分

テーマ：大学授業デザインの方法-1 コマの授業からシラバスまで-

ファシリテーター：産業医科大学 柴田喜幸、法政大学 森幹彦、愛媛大学 根本淳子、徳島大学 高橋暁子、大分大学 鈴木雄清

概 要：

参加教員が担当している 1 科目を選択し、シラバスを中心にして授業改善のアイデアを出せるようになることをめざすワークショップ形式で実施された。当日の能動的な活動を中心とした対面研修に加えて、事前の e ラーニングの反転学習とのブレンド型であった。

日本教育工学会の SIG-01（高等教育・FD）・SIG-07（インストラクショナルデザイン）との共催で、日本教育工学会のこれまでの知見を活用し、大学教育の授業改善や教員の授業力向上へ寄与しようと 2008 年度から行われているプログラムを適用して実施したものである。修了要件（事前・事後学習を含む）を満たした参加者には、本研修を修了したことを証明する日本教育工学会の認定書を発行した。

参加者

所 属	参加者数
教育学部	3 名
経済学部	2 名
医学部	4 名
理工学部	2 名
福祉健康科学部	2 名
国際教育推進センター	2 名
全学研究推進機構	1 名
高等教育開発センター	1 名
別府大学短期大学部	1 名

⑩ きつちよむフォーラム 2018 「正課外活動での学生および教職員学生の主体的な学び」

日 時：平成 30 年 12 月 5 日（水）14：50～16：20

場 所：教養教育棟 25 号教室（旦野原キャンパス） 第 2 会議室（挾間キャンパス）

テーマ：正課外活動での学生の主体的な学び

報告者：

1. 正課外活動での学生の主体的な学びの報告

①おおいた めいぐるみ病院 岡田 剣士朗（医学部医学科 4 年）

②救命救急サークル HOTLINE 上田 哲平（医学部医学科 4 年）

③図書館チューター ゆい（結い）読み聞かせボランティア

宮地 翼（教育福祉科学部 4 年） 橋本 亜莉珠（教育学部 1 年）

加藤 瑞紀（経済学部 2 年） 上野 わかな（福祉健康科学部 2 年）

2. 学生の主体的な学びのために（意見交換）

概 要：

「きつちよむフォーラム」は、学生が FD 活動に参加する研修会である。

第 1 部では、正課外に実施されているものの、大学の教育目標との関係が密接であり、学習効果が期待できる学生中心の活動を学生が紹介した。

第 2 部では、その成果や大学の教育との関係性などについて、学生と教職員とで意見交換するとともに、今後の本学の教育の方向性について検討し、教育効果は認められ今後の推進が期待される一方、学生の活動を支援するための予算や教室等の確保が必要であること等が指摘された。

参加者 教職員

所 属	参加者数
教育学部	1 名
経済学部	1 名
医学部	1 名
理工学部	2 名
高等教育開発センター	4 名
研究・社会連携部学術情報課	2 名
医学・病院事務部学務課	4 名
学生支援部教育支援課	4 名
学生支援部学生支援課	2 名

参加者 学生

	参加者数
教育学部	2 名
経済学部	1 名
医学部	2 名
理工学部	2 名
福祉健康科学部	1 名
工学部	5 名

⑪ 教員相互の授業参観

本学では、2006 年度（平成 18 年度）から教員相互の授業参観を実施している。これまでの実施は単年度で企画実施してきたが、今後の定例化を図るために、全学的に実施方法の見直しを行い、2018 年度後期から、以下のように実施した。

## 1. 教員相互の授業参観の目的

教員相互の授業参観は、参観教員が授業改善のための新たな教授法等の知見を得ること、授業を公開した教員が参観教員からのコメントをもとに授業改善のための新たな気づきを得ることを目的に、教員の相互協力的な FD 活動として実施します。

## 2. 教員相互の授業参観の手順

教員相互の授業参観の手順は次のとおりです。

[2018 年度後期] 教員相互の授業参観可能科目一覧と参観事前申込のページで授業参観可能な科目を確認のうえ、公開日の 1 週間前までに参観事前申込フォームからお申し込みください。

授業を参観してください。

授業参観後、1 週間以内に【報告フォーム A】授業参観 報告フォーム（参観教員用）から、参観しての感想や意見等（良いと感じたことや参考にしたいこと、新たな気づきなど、建設的な意見）を 300 字以内で報告してください。

その後、授業担当教員からの報告が、高等教育開発センターを經由してメールで送られます。

## 授業参観・授業検討会実施科目一覧

### 旦那原キャンパス

日付期間	曜限	区分	科目名	授業担当教員・所属	教室・制限人数	人数
11/29	木 4	経済学部	ソーシャルイノベーション創出実践ワークショップ	仲本大輔ほか（教員 9 名） 社会イノベーション学科	経済学部 201 号 教室制限なし	4 人
12/4	火 3	理工学部	応用化学入門	井上高教 理工学部共創理工学科応用化学コース	理工 8 号館 107 教室 制限なし	1 人
12/6	木 2	理工学部	コミュニケーション実習	藤井弘也 教育学部	教養教育棟 13 号 制限なし	2 人
12/19	水 3	教養教育	インストラクショナルデザイン入門	鈴木雄清 高等教育開発センター	教養教育棟 CALL 教室 制限なし	1 人
1/8	火 1	教養教育	カラダの見方・考え方	牧野治敏 高等教育開発センター	教養教育棟 32 号 制限なし	0 人
1/23	水 2	教養教育	学習意欲の心理学	鈴木雄清 高等教育開発センター	教養教育棟 24 号 若干名（座席僅少）	1 人
1/30	水 3	理工学部	知能システム実験	賀川経夫 理工学部共創理工学科知能情報システムコース	理工 8 号館 6 階ハードウェア実験室 6～8 名程度	2 人

### 挾間キャンパス

日付期間	曜限	区分	科目名	担当教員・所属	教室・制限人数	人数
12/1-1/31	-	医学部 医学科	法医学関係の科目を除くすべての科目	医学部 医学科教員	-	1 人 (2/6)
後期	(学科内で開示の別表参照)	医学部 看護学科	臨地実習科目 基礎看護学実習 II 精神看護学実習 地域看護学実習	医学部 看護学科教員	(学科内で開示の別表参照)	集に学看 計て科護

			地域看護学実習（編入生） 成人看護学実習 母性看護学実習 小児看護学実習 老年看護学実習 在宅看護学実習		
後期	水1・3、火1	医学部 看護学科	成人慢性期看護方法論Ⅰ	脇幸子 看護学科	看護学科 221号講義室
後期	水1 (10/31)	医学部 看護学科	成人急性期・回復期看護方法論	末弘理恵 看護学科	看護学科 221号講義室
後期	木3-5 (10/25は3-4)	医学部 看護学科	災害看護論	末弘理恵 看護学科	看護学科 221号講義室
10/10 10/19	3限 1・2限	医学部 看護学科	地域看護活動展開演習	井手知恵子 (後藤奈穂) 看護学科	看護学科棟 実習室

⑫ 柔軟な学事暦 クォーター制の導入について

日 時：平成30年12月19日（水）16：40～17：40

場 所：教養教育棟35号教室 / 看護学科棟211号教室（遠隔配信）

テーマ：「柔軟な学事暦 クォーター制の導入について」

講 師：副学長（入試・教育改革担当） 望月聡

概 要：

現在16週間で構成されているセメスター（前期，後期）を8週間で構成し，4つのターム（期間）に分割したクォーター制を本学で導入するにあたっての意見交換を行った。現状の時間割に大きな影響を与えることなくクォーター制を導入する方法が紹介された。クォーター制の導入により，8コマで構成される授業，週2回の実施による集中した授業，2コマ連続で実施する授業を設定することができ，多様な授業展開が可能になることから，学修効果の向上が期待できる一方，時間割が複雑になること，教室の確保，学年暦の変更などの課題が指摘された。今後に向けて更に意見を収集することとして閉会した。

参加者

所 属	参加者数
教育学部	1名
経済学部	6名
理工学部	8名
高等教育開発センター	2名
学生支援部教育支援課	2名

⑬ FD研修会「Moodle研修会 活用編—小テスト作成を中心に—」

講 師：高等教育開発センター准教授 鈴木雄清

概 要：Moodleでどのようなことができるのかについて、実際に学生ロールでの体験を通して紹介した。投票、出欠確認、ミニッツペーパー等の授業ですぐに使える Moodle

の簡単な活用方法について説明した。

日 時：平成 30 年 12 月 19 日（水）15：00～16：20

場 所：経済学部棟 2 階情報処理第 1 実習室

日 時：平成 31 年 2 月 19 日（木）13：30～14：00

場 所：理工学部 1 号館（管理棟）2 階・第 1 会議室

#### ⑭ 大分合同 FD・SD フォーラム

日 時：平成 31 年 2 月 22 日（金）13：10～17：00

場 所：日本文理大学 18 号館 A 棟 18A41 教室

テーマ：地域の大学間連携による FD・SD を成功させるために

講 師：愛媛大学 教育・学生支援機構 教授 中井 俊樹

愛媛大学 教育学生支援部教育企画課能力開発室室長 吉田 一恵

（SD 統括コーディネーター）

概 要：

今回が初めての実施となる、大分県内の高等教育機関が連携して企画・実施する FD・SD 研修会を開催した。第 1 回のテーマとして、地域の大学が連携する FD・SD をとりあげた。このような研修会を実施することについての、メリット、推進のための組織や手法などを、先進的な取り組みで成果を上げている四国地域の事例をもとに、研修会を成功させるために必要な事項を学ぶとともに、大分県内で実施する方法を検討した。

テーマ 1：大学間連携による FD の推進

講 師 1：愛媛大学教育・学生支援機構 教授 中井 俊樹 氏

テーマ 2：大学間連携による SD の推進

講 師 2：愛媛大学 SD 統括コーディネーター／教育学生支援部教育企画課能力開発室

講 師 2：室長 吉田 一恵 氏

会 場：日本文理大学

参 加 者：大分大学教職員：13 名 他大学教職員：74 名

内 容

大分県下の大学等合同してそれぞれの特色を生かすことで、効果的な研修を実施するために、先進的な事例として SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）の取組について、代表校である愛媛大学から講師を迎えた。FD については中井教授から、SD については吉田 SD チーフコーディネーターから、その概要、成果と課題について、大学間連携推進の立場から豊富な資料をもとにご講演いただくとともに、フロアとのディスカッションを行った。

また、本フォーラムに先立って、各大学の FD、SD 担当者 22 人が集まり、吉田 SD

コーディネーターによる 50 分間のワークショップ「SD の運営について考える～SD 担当者の役割とは～」を実施し、各大学の現状を踏まえ、今後の研修の在り方、企画の仕方について意見交換した。

#### 参加者

所 属	参加者数
大分県立看護科学大学	3 名
大分県立芸術文化短期大学	4 名
大分工業高等専門学校	2 名
大分短期大学	5 名
日本文理大学	37 名
東九州短期大学	4 名
別府大学	11 名
別府大学短期大学部	3 名
別府溝部学園短期大学	1 名
立命館アジア太平洋大学	4 名
大分大学	13 名

#### 参加者 87 名のうち、アンケート提出のあった 80 名の集計結果

問 1	関心のあるテーマだった	問 2	分かりやすい内容だった		
5	そう思う	42	5	そう思う	40
4	ややそう思う	34	4	ややそう思う	35
3	どちらともいえない	3	3	どちらともいえない	5
2	あまりそう思うわない	1	2	あまりそう思うわない	0
1	そう思うわない	0	1	そう思うわない	0
0	無回答	0	0	無回答	0
		80			80
問 3	期待どおりの内容だった	問 4	役に立ちそうな内容だった		
5	そう思う	25	5	そう思う	34
4	ややそう思う	41	4	ややそう思う	36
3	どちらともいえない	14	3	どちらともいえない	9
2	あまりそう思うわない	0	2	あまりそう思うわない	0
1	そう思うわない	0	1	そう思うわない	1
0	無回答	0	0	無回答	0
		80			80
問 5	時間の長さ	問 6	総合評価		
5	長い	3	5	満足	31
4	やや長い	13	4	やや満足	45
3	ちょうどよい	52	3	どちらともいえない	4
2	やや短い	11	2	やや不満	0
1	短い	1	1	不満	0
0	無回答	0	0	無回答	0
		80			80

## 問7 問6 総合評価の回答の理由

- ・今後の教員育成には「テニユア教員育成制度」の構築が必要と感じた。
- ・先進的なFD・SD活動の取り組みについての知識を得ることが出来た。
- ・新任教員教育制度はよい制度だと思いました。国立大学と私立大学のおかれている環境の違いを感じました。四国と九州（大分）とで、地域性の相違、学生の大学に求めているものの違いなどがあるのかを考慮した上で、今後活かしていきたいと思います。
- ・本学でもFD活動は実施されており、多くの教職員が参加して成果を上げていると考えるが、他大学との協働によるFDの可能性を感じることができた。
- ・「問3.期待どおりのないようだった」を「どちらともいえない」とした理由は、もう少し「大学地域間連携」の話があるからだろうと思ったからです。しかし、私は、最初から「大学地域間連携」に興味がなく、むしろ中井先生のFDの説明が非常に分かりやすく楽しかったです。ありがとうございました。時間は「長い」と思いました。しかし、中井先生と吉田さんのお話でなければ、私は「長すぎる」と評価したと思います。楽しい話、ありがとうございました。
- ・新任教員の研修の必要性が大変勉強になった。
- ・教職員が本音でSD/FDを推進している大学があることを知った。四国4県の強い連携プロジェクトの実例を知った。
- ・SPODの取組など、知らないことが多く、勉強になったから。
- ・大学教員に求められる能力・役割が増々高くなっていることがよくわかり、参考になった。
- ・絵を書くだけでなく、実践する能力の養成をしっかりと組み上げていてとても感銘を受けました。日々の仕事で自分の能力開発やプロフェッショナルとなることを考える暇もなく過ごしてきたので、少し考えなければと思いました。ありがとうございました。
- ・FDについては、分かりやすかったです。しかし、SDは時間が少し短かったようで説明の部分をもっと詳細にして頂きたかった。
- ・大学間連携のFD・SDの取組にSPODの推進を知り、他大学との協力の必要性を感じた。大学教員の役割、求められる能力について理解できたと思う。
- ・パワーポイント資料がカラーで見やすく、内容の豊富さのゆえに、今後のFD・SDに役立つものだった。
- ・事例を交えながらの内容でしたので、イメージしやすかったです。
- ・新任教員研修のもう少し具体的な内容を知りたいです。
- ・職務改善に傾ける高等教育機関教職員の善意と努力の一端を知れるよい内容であった。一気に片付ける内容ではなさそうなので、数回に分けてもよかったのではないかと。
- ・他大学の取り組みを聞いて良かったです。
- ・SPODという具体的なFDの大学間連携の活動の様子を知ることができ、参考になったため。勤務先のFD研修でとりあげてもらいたいテーマ等の参考になったため。

- ・先進的取組み、今後必要な内容を知ることができた。
- ・実際行われている研修プログラムを体験（もしくは、ビデオを拝見）できたらよりイメージつけやすいと思っております。
- ・説明内容が少々早いので、しっかりと聞きたかった。
- ・取組みについては理解できた。もう少し具体的な例を聞いてみたかった。
- ・勉強不足の自分にとって、とても良い刺激になりました。
- ・去年、北海道大学から山本講師に来てもらったのですが、その背景となる話を伺えて、納得のいく点が多かったため。
- ・職責と評価のずれの説明を行っていた。新しい知見（FDと組織）が得られた。
- ・制度的な話だけでなく、具体的な研修内容があれば良かった。大学間連携については、大変参考になった。
- ・四国地区のSD、FDのネットワーク状況や展開等について貴重な情報が得られました。高等教育機関における教職員の資質・能力開発のアプローチへの示唆をいただきました。
- ・問題点がよくまとめられていたので、参考になりました。
- ・愛媛大学の取組みが大変素晴らしく、民間企業並みの人材育成についての研修を用意されていることに驚きました。本学でも目指すべきロールモデルが見つかったのは有意義でした。
- ・日頃の職務に役立つ内容だったから。
- ・自分あるいは、大分の大学が「井の中の蛙」であることが分かった。
- ・非常に先進的で驚きました。ここまでやっている大学があるのは心強い限りです。
- ・本学FD活動にも活用できそうな内容でした。
- ・理論ではなく、実践例ということで大変参考になった。
- ・個別の悩みに対してのみならず、今後につながる話がきちんとできていたのが良かったです。
- ・FDとSDそれぞれ講師を呼んでいただいてありがたかったです。私は教員ですので、役に立つという意味では中井先生の内容と教え方が大変有意義だった。特に、SPODのように地域全体でここまでプログラムの企画・実践・統合ができていることに大変感銘を受けました。
- ・FD・SDの多様な取組みや知見を共有いただきまして、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・他大学のFD・SDの取組みが分かり、参考になった。SDの部分をもう少しゆっくりと聞きたかった。
- ・SPODや愛媛大学が取り組まれている事例を具体的に多く知ることができ、とても参考になった。本学や大分県下の大学連携がSD/FDを進める上で活かせるような点が多くあった。
- ・先進的な取組をFD・SDそれぞれ講義を頂き、学びの多い内容でした。ありがとうございました。

いました。

・FD 活動が集合型研修だけでなく、様々な活動が対象と考えられることがよく分かりました。Think-pair-share は、授業の中で単に特定の学生を指名することに代わる方法として試してみたいと思う。

・大学教育組織の改善が強く、継続的に求められることは論を俟ちませんが、営利的目的、民間企業の組織論と酷似していることに違和感を禁じえないことは、得心しかねる点でした。ex)「社会変化のスピード」に呼応、「運命共同体」、「消極的な分子は排除」…高等教育機関としての固有性は、評価軸の多様性ではないか～その保障は？

・勉強になることが多かった。

・本学で実際に実行できるかは難しいところがあるが、大学職員としてFD・SDの意識付けをもっと教職員一丸となって、取り込まなければならないと強く感じた。

・SPOD を中心とする事例のご解説により、研修の（特に自主的に個々の参加）重要性を再確認させていただいたためです。今後、積極的に参加させていただきたいと思います。

・本学だけでは、難しいと思われる内容の研修も県内大学で連携すれば行うことが可能な気持ちを抱かせてくれた。

・私自身が大学教育において新任研修教員としての研修を受ける必要のある状況であり（入職1目でFD・SD委員になった）、基本的な理解が不十分なため、講演内容についていくので精一杯でした。中井先生よりご紹介いただいた書籍やFD・SD関連の研修を活用しながら、これからも学んでいきたいと思います。

・合同FD・SDの必要性について理解できていなかったもので、そのメリットや意義をある程度理解できた。

・FD・SDの内容がかなり被っているところがあったが、本学では展開されていないFD・SDのかたちを知ることができて勉強になったため。とりあえずSPODの素晴らしさが良く分かった。

・自分たちは、まず、何をやらなければならないならいか、という点について具体的にSPODに参加してみればよいのではないかという解が準備されていることが良かった。

・FD・SDを推進していくイメージを持つことができた。特に、中井先生の「ミクロ・ミドル・マクロ」のレベル別の活動内容はとても分かりやすかった。

・FD・SDの多様な形について改めて学ぶことができた。事務職員との協働という視点が我々の方でも進められればと思った。職員連携についてもっとゆっくりと時間をかける話を伺えるとよいと感じたので、以上の総合評価としている。

・SDの推進についてお話が聞けて良かった。

・テーマ、内容に満足している。内容が多かったが、半日のプログラムで内容を考慮したタイムスケジュールで問題なかった。

・本学では、あまりFD・SD研修が実施されていないので、研修を受ける側ではなく、実施していく側の者がこの研修をまず受けるべきだと感じた。とても素晴らしい活動がされ

ていることを知り、とても勉強になりましたが、1 歩目をどう踏み出していくべきかも考えさせられる内容でした。

- ・職場において役立てたい内容ではなかったが、大学の土壌が違いすぎて半分夢物語のように感じた。また FD にも様々な方法があるという話は、これまでの自分の考えになく、話を聞いて良かった。

- ・FD・SD がスキル向上のための重要なツールであることは分かった。しかし、実際行われている FD・SD の内容は、常識的なことが多く、企業なら既に実施しているところも多く、とりあげるテーマについて大学間連携は新しい視点から問題提言がなされることを期待する。

- ・配布資料が充実していた。

- ・今の大学教員に何が求められているのか、どんなことを身につけていかなければならないか、を知ることができた。自分たちがどのようなことをやっていくのかまだ具体的なイメージが持てないが四国愛媛の取組は素晴らしいと思った。

- ・先進的な FD・SD の取組を知ることができたため。

- ・SPOD の存在を知らなかったので、とても興味深かった。

- ・SD の具体的な内容をもう少し詳しく聞きたかった。

- ・中井先生のお話のみの参加でした。データが豊富で分かりやすかったです。ありがとうございました。四国のサイズが適当なサイズなのでしょうか。九州、沖縄地区ではこのような協力体制は難しいように思います。何か、アドバイスはありますか？（質問）

- ・第 1 回合同フォーラムということで、FD・SD、SPOD 等の概念を理解することができた。

- ・吉田先生のご講演については、少し短い時間を感じましたが、非常に多数の情報のインデックスとしてよくまとめられた内容でした。

#### ⑮ FD 講演会「ICT 活用教育の歩みと展望」

日 時：平成 31 年 3 月 8 日（金）13：10～14：30

場 所：教養教育棟 14 号教室

テーマ：大分大学における ICT 活用教育の歩みと展望

講 師：山下茂 教育学部教授

概 要：

大分大学では、これまでに SCS( 衛星通信システム) や、インターネットを活用した遠隔授業を実施してきた。ICT 活用教育の基盤となる学習管理システム(LMS) として、2003 年に WebCT、その後 2007 年に WebClass、2017 年に Moodle を導入し、学生の教育に活用してきた。

このような本学における ICT 活用教育の経緯を振り返るとともに、講師の関わり、大学教育の時代的な方向性の変遷などを踏まえ、講師自身の経験に裏打ちされた将来的な展望についても言及があり、非常に興味深い講演であった。

#### 参加者

所 属	参加者数
教育学部	4 名
医学部	1 名
理工学部	5 名
高等教育開発センター	4 名
研究・社会連携部学術情報課	1 名
学生支援部教育支援課	2 名
熊本大学	2 名

#### 総合評価回答への理由

- ・山下先生がご尽力されてきた ICT 教育の歴史をダイジェストでうかがうことができよかったです。

今後の展開として群馬大宇都宮大の共同教育学部設置のようなことが九州の大学であるのかなと思いました。

- ・自分自身に基礎知識がないので、難しく感じる話題が出たときに十分理解できないところがあった。

- ・大分大学の ICT 活用教育の現状がよくわかりました。

- ・私のレディネスが低いため、少し分からない部分があり、上記総合評価としました。

(申し訳ございません。) 大分大学の取り組みを知ることができて良かったです。

- ・WebCT が Webclass になったり、と歴史的な経緯がよくわかりました。Learning Management System は、今後ますます私たちの授業と切り離せるものになると思います。山下先生の試行錯誤の歴史があった上での今の Moodle であるということがよくわかりました。ありがたいことであるというのが理由です。

- ・多くのトピックスで大変懐かしくお話を伺いました。ありがとうございました。

- ・内容が自分のやってきた仕事と一致しているので、思い出す場面の懐かしさと意義についての再確認できた。

- ・SCS など懐かしい話もあり、またその基底には一貫してどのような大学教育を行うかという思いもあり、振り返りが元気と今後の展望につながったように思います。

- ・講師がよかった。

- ・ICT 活用教育の変遷とそれに対応されて来られた山下先生の活動は今後の参考になります。古くて新しい話題であり、個別化された教育 (adaptive learning) の提供に向けての支点を得ることができました。

その他の感想

- ・働き方改革が求められる中、看護師の現任教育の効率化のために、e-learningの活用などももっと進められるかなと素人ながら思いました。
- ・「大学に来て一度つなげれば1日色々使える」というポータル構築が重要であるという言葉にはとても考えさせられるものがありました。そのようなポータルが構築されても自分がそれをうまく利用（活用）できなければ学生にとっても意味を無くしてしまうかもしれないと危機感と責任感を感じました。

### 3. FDプログラムガイドパンフレットの作成

大分大学では、各学部やセンター等が主催・共催する多くのFDプログラムが実施されている。昨年度に引き続き、高等教育開発センターで来年度に開催予定の全学のFDプログラムを取りまとめてパンフレットを作成、公開することを計画した。年間を通じた全学のFDプログラムのガイドパンフレットを作成することのメリットとして、以下のような点が挙げられる。

1. 年間を通じて学内で開催されるFDプログラムの概要を広報することができ、参加を希望する教職員に周知できる。
2. FDプログラムの内容や日程が周知されることによって、行事や会議等との日程の重複や、類似するFDプログラムが同時期に開催されることを事前に確認・調整することができ、結果として多くの教職員が参加しやすくなる。
3. 学内で実施されているFDプログラムを俯瞰的に整理し、FDプログラムやカリキュラムの改善につなげることができる。

作成するパンフレットでは、対象が全学の教員（本学の職員や学生、学外者を含んでも可）となっているFDプログラムを掲載することとし、特定の学部や部局等の教員のみを対象にしたFDプログラムについては掲載しないこととした。また、本学のFDプログラムを、各教員個人および教授団の①教育、②研究、③マネジメント（管理運営）の3つの能力カテゴリーの開発として捉え、整理した。作成にあたっては、芝浦工業大学教育イノベーション推進センターの理工学教育共同利用拠点のパンフレット、大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部のFDプログラムガイド、四国地区大学教職員能力開発ネットワークの研修プログラムガイドを参考にした。



大分大学教員のための  
**ファカルティ  
ディベロップメント  
プログラムガイド**

**2019**

## 大分大学教員を対象としたファカルティ・デベロップメント・プログラム

本ガイドは、2019年度に大分大学の全学の教員を対象に開催・実施予定のFD（ファカルティ・ディベロップメント）プログラムをまとめたものです。本ガイドでは、FDを各教員個人および教授団の①教育、②研究、③マネジメント（管理運営）の3つの能力カテゴリーの開発として捉え、整理しています。

### 教育能力

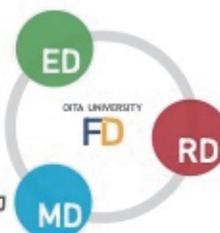
#### 開発プログラム

授業設計やアクティブラーニングの導入、LMSやポートフォリオの活用や多様な学生の理解など、教育改善のための能力開発プログラムです。

### マネジメント能力

#### 開発プログラム

心や体の健康やダイバーシティに関する理解、情報セキュリティ、各種コンプライアンスなど、個人や組織運営の管理能力を開発するためのプログラムです。



### 研究能力

#### 開発プログラム

学術情報の発信方法や研究倫理、研究のための外部資金獲得など、研究に必要な能力開発のためのプログラムです。

## 大分大学教員の皆様へ

本学は、その使命を、大学憲章（基本理念）において「人間と社会と自然に関する教育と研究を通じて、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成するとともに、地域の発展ひいては国際社会の平和と発展に貢献し、人類福祉の向上と文化の創造に寄与する」と位置付けています。その達成のために、本学教員の教育や研究、マネジメントに関する能力を高めるためのFDについて積極的に取り組んでおり、全教員が何らかのFDに毎年度参加することを強く勧めています。本プログラムガイドに掲載されている研修・能力開発プログラムは、本学の全教員を対象として設計されていますので、新任教員はもとより、多くの教員の皆様が必要に応じてご利用いただくことを期待します。



学長  
北野 正剛



**ED Educational Development**

**教育能力  
開発プログラム**

### 1 Moodle 導入編

日程	5月他
募集人数	30名程度
主催	高等教育開発センター

Moodle 導入で可能になることを体験し、授業で Moodle や授業支援ボックスの基礎的な活用ができるようになることをめざします。

### 2 アクティブ・ラーニング ワークショップ

日程	6月他
募集人数	30名程度
主催	高等教育開発センター

本学で取り組んでいるアクティブ・ラーニングのガイドラインを紹介し、授業で幾つかのアクティブ・ラーニングの手法を用いることができるようになることをめざします。

### 3 授業参観・授業検討会

日程	6-7月・11-12月
対象	授業担当教員 <span style="background-color: orange; color: white;">学内者のみ</span>
主催	高等教育開発センター

他の教員の授業参観と、授業終了後に授業者と参観者で行う授業検討会を通じて、授業設計や教授法、教材等を改善するための示唆を得ることを目的としています。

### 4 ティーチング ポートフォリオ作成 WS

日程	7月 [予定]
対象	県内大学等の教員
募集人数	10名程度
主催	高等教育開発センター

自己の教育について省察し、エビデンスによる裏付けを加えた教育実践の記録を作成できるようにすることをめざして、TPチャートとTSスタートアップシートを作成します。

### 5 一次救命処置(心肺蘇生とAEDの使用法)・ 熱中症や感染症予防と対処法

日程	年2回程度(7・12月)
対象	教職員 <span style="background-color: orange; color: white;">学内者のみ</span>
主催	旦野原キャンパス衛生委員会 (総務部人事課)・保健管理センター

心肺蘇生とAEDの使用による一次救命措置ができるようになること、熱中症や感染症の予防や対処方法を説明できるようになることをめざします。

## 6 授業デザインの基礎 (新任教員研修会)

日程	10月〔予定〕
対象	県内大学等の新任教員
募集人数	20名以内
主催	高等教育開発センター

授業の適切な目標設定や成績評価、シラバス作成、学生参加型の活動の導入を行うことができるようになることをめざします。  
※ 学外での1泊2日の宿泊型研修を予定。

## 7 学生参加型FD・SD きっちよむフォーラム

日程	11月
対象	教職員・学生 <b>学内者のみ</b>
主催	高等教育開発センター

学生と教職員が大学の教育や授業について議論し、多くの学生の声を集めて、教育改善を図る取組につなげることをめざします。

## 8 Moodle 活用編 —小テスト作成を中心に

日程	12月他
募集人数	15名程度
主催	高等教育開発センター

自動採点や即時フィードバック、繰り返しの学習が可能で、知識の確認や定着に効果的な小テストをMoodleで作成できるようになることをめざします。

## 9 学修ポートフォリオと 教育の質保証

日程	3月他
募集人数	30名程度
主催	高等教育開発センター

フォリオシンキングのプロセスや、ディプロマ・ポリシーを踏まえて学生がフォリオシンキングすることを支援する仕組みを説明できるようにすることをめざします。

## 10 障がい学生への対応

日程	年1回
募集人数	40名程度 <b>学内者のみ</b>
主催	学生支援部

視覚や聴覚、発達の障がいや肢体不自由などさまざまな障がいを抱える学生に対して、修学機会を確保し、合理的配慮をすることができるようになることをめざします。

## 11 大分合同FD・SD フォーラム

日程	未定
対象	県内大学等の教職員
主催	「おおいた創生」推進協議会
場所	別府大学〔未定〕

県内の大学等学術機関でFD・SDの取組を連携・協力して教育レベルを向上させ、地域の教育・研究の充実発展を図るとともに、活力ある地域を創生することを目的とします。

## 12 学生支援研修会(年数回) 大学生のメンタルヘルスほか

日程	年数回
募集人数	40名程度 <b>学内者のみ</b>
主催	高等教育開発センター
共催	学生支援課

本学の教員ならびに学務・学生支援を担当する職員を対象とし、学生対応に必要な知識を習得することを目的として、複数テーマをオムニバス形式で年数回実施します。

## 13 授業コンサルテーション サービス

日程	随時
対象	授業担当教員 <b>学内者のみ</b>
主催	高等教育開発センター

授業の優れた点や改善可能な点を明らかにし、学生の学修への動機づけを高める改善方策を選択するための支援をします。  
※ 対象授業で学生対象の専用アンケートを実施。



RD Research Development

# 研究能力 開発プログラム

## 1 AMED 申請セミナー

日程	5月
募集人数	50名程度 <b>学内者のみ</b>
主催	全学研究推進機構

AMED事業について概略を説明します。また、樋口URAがAMED事業採択のコツを講演します。AMED事業を知らない方から採択を狙っている方までの事業採択を支援します。  
※ 学内研究者と関係のある学外者の参加可。

## 2 科研費説明会

日程	9月中旬から随時(5か所)
募集人数	未定 <b>学内者のみ</b>
主催	研究・社会連携課
共催	ダイバーシティ推進本部、全学研究推進機構URAチーム室

今年度の科研費申請における注意点・女性研究者の活躍状況・URAによる科研費採択のコツを説明します。  
※ 各学部で実施します。

## 3 プレ科研費説明会

日程	年2回程度
募集人数	30名程度
主催	全学研究推進機構
後援	ダイバーシティ推進本部

科研費採択分析を基にした採択のコツ等をURAより説明します。また、科研費採択後の研究の発展方法の紹介を、マニュアル本を用いて説明します。

※ 参加特典：外部資金採択マニュアル

## 4 科研費獲得セミナー

日程	年1回程度
募集人数	30名程度
主催	ダイバーシティ推進本部
後援	全学研究推進機構URAチーム室

外部講師により、科研費の申請状況や書き方のコツについて講演があります。科研費改革が進んでいる昨今、新しい情報収集・更新にお役立てください。

## 5 英語論文の書き方セミナー と校正サービス

日程	年3回程度
募集人数	100名程度
主催	ダイバーシティ推進本部
後援	全学研究推進機構URAチーム室

脱日本語的発想・英語論文執筆における3つの鉄則・テクニク等の英語論文の書き方と大分大学用校正サービスの説明を行い、論文輩出の支援をします。

MD Management Development  
マネジメント能力  
開発プログラム

**1 新任教員研修**  

**日程** 5月下旬 - 6月下旬 [予定]  
**対象** 昨年5月2日～本年5月1日に採用された教員 **学内者のみ**  
**主催** 総務部人事課

新たに本学採用された教員が本学の現状及び将来像等を認識し、教員としての役割及び責任についての意識を向上させることを目的として実施します。

**2 禁煙について考える**  

**日程** 6月2日  
**対象** 教職員・学生  
**主催** 高等教育開発センター  
**共催** 保健管理センター

世界禁煙デー、禁煙週間にあたって実施する、たばこの害や無煙環境推進の取組、禁煙方法等、禁煙について考える公開講座です。

**3 メンタルヘルス講演会**  

**日程** 12月 [予定]  
**対象** 教職員 **学内者のみ**  
**主催** 学生支援部、メンタルヘルス専門委員会、保健管理センター、高等教育開発センター

ストレスやその原因となるストレスラーについて理解を深め、過度なストレスに対処し、こころの健康を保つためのストレスコーピングができるようになることをめざします。

**4 ハラスメント防止教育講演会** 

**日程** 6月下旬  
**対象** 教職員・学生 **学内者のみ**  
**主催** イコール・パートナーシップ委員会 (総務部人事課)

学生及び教職員に対して、ハラスメントに対する理解を深め、ハラスメントによる人権侵害を防止することを目的に実施します。

**5 ストレスチェックフィードバック研修**

**日程** 1-2月  
**対象** 教職員 **学内者のみ**  
**主催** 総務部人事課

夏季に実施するストレスチェックの結果を細かく分析し、その結果から得られたストレスに対する効果的なケアの方法等を説明します。教職員の心の健康の保持増進、快適な職場づくりを目的とした研修です。

**6 コンプライアンス教育**  

**日程** 7-8月 [予定]  
**対象** 研究の代表者、分担者、連携者、協力者の方 **学内者のみ**  
**主催** 研究・社会連携課

事例や最新の報告を交えながら、研究不正・研究倫理・利益相反・データの保存に関する注意点が説明されます。また、最後に出席確認を兼ねたテストを受けていただきます。

**7 e-learningによる情報セキュリティ研修**

**日程** 年1回  
**対象** 教職員 **学内者のみ**  
**主催** 学術情報拠点

本学の利用者ID※を保有する全教職員を対象に、情報セキュリティに関する知識の共有、インシデント対応能力の更なる向上を目的としたe-learning研修を実施します。  
※ 職名IDを除く。

**8 ダイバーシティセミナー**

**日程** 年3回程度  
**募集人数** 50名程度  
**主催** ダイバーシティ推進本部

ダイバーシティへの理解を深めるため、講師を招き、セミナーを開催します。講師の先生方の経験や企業等での取組みが紹介されます。

**9 コンプライアンスセミナー**

**日程** 年1回程度  
**対象** 研究の代表者、分担者、連携者、協力者の方 **学内者のみ**  
**主催** ダイバーシティ推進本部

外部講師により、事例や最新の報告を交えながら、研究不正・研究倫理・利益相反・データの保存に関する注意点が説明されます。

※一部のプログラムについては、以下のアイコン情報を付加しています。

-  目野原キャンパス
-  抜間キャンパス
-  ホルトホール
-  遠隔配信あり



高等教育開発センター (学生支援部教育支援課)  
〒870-1192 大分県大分市大字目野原700番地 教養教育棟  
[E-mail] hecenter@oita-u.ac.jp [TEL] 097-554-8509  
www.he.oita-u.ac.jp/fdevent/

※ FDプログラムの開催時期や場所等は変更になることがあります。

#### 4. 学生による授業評価アンケートの実施

本学の授業改善を目的とした、学生による授業評価の実施母体である教務部門会議の活動を支援するために、全学統一した授業評価アンケートの立案、作成及び調査結果の集計と分析を行い、報告書を発行している。本年度刊行した報告書は「平成28年度教員による自己点検レポート集～学生による授業評価への対応～」 「平成28年度授業改善のためのアンケート調査結果報告書～学生による授業評価～」である。

また、全学的な授業評価アンケートの見直し作業のために、全学教育機構運営会議を母体に構成された授業評価アンケート見直しワーキングに、専門的な立場として参加した。

平成29年前学期及び後学期に実施した「学生による授業評価」アンケート調査の調査対象は以下のとおりである。

##### 前学期

- ・教養教育（全学教育機構）：全学共通科目 主題⑤（自然・科学）
- ・教育学部／教育福祉科学部：Cグループ（授業担当者の名前は～わ）
- ・経済学部：各学科3番目の講座の科目（ただし、社会イノベーション学科は、全科目）
- ・医学部：医学部からの提出科目
- ・理工学部／工学部：全科目
- ・福祉健康科学部：全科目対象（ただし、学外実習及び基礎研究科目を除く）

##### 後学期

- ・教養教育（全学教育機構）：外国語科目
- ・教育学部／教育福祉科学部：Aグループ（授業担当者の名前あ～こ）
- ・経済学部：各学科最初の講座の科目（ただし、社会イノベーション学科は、全科目）  
学部共通科目
- ・医学部：医学部提出科目
- ・理工学部／工学部：全科目
- ・福祉健康科学部：全科目対象（ただし、学外実習及び基礎研究科目を除く）

#### ①平成30年度前期授業改善のためのアンケート対象科目

【教養科目】	ソルフェージュ I (清水 慶彦)
分大キャンパスライフ入門 (望月 聡他)	音楽理論・作曲法基礎(編曲法を含む。)
ものづくり入門 (中原 久志)	(清水 慶彦)
コミュニケーション入門 I (佐藤 裕哲)	異文化理解と英語教育 (シンソソ リチャード)
コンピュータ科学入門 (中島 誠 他)	オーラルイングリッシュ (シンソソ リチャード)
情報処理入門 (吉崎 弘一)	コミュニケーション英語 I (シンソソ リチャード)
プロジェクト型学習入門1～インターンシップセミナーB～ (岡田 正彦 他)	道徳の指導法 (鈴木 篤)
学習ボランティア入門 (岡田 正彦)	教育本質論 (鈴木 篤)
生涯学習論入門 (岡田 正彦)	教育制度・経営論 (住岡 敏弘)
【教育福祉科学部／教育学部】	体育(小) (住田 実)
知的障害児の発達検査法 (佐藤 晋治)	教育相談/教育臨床学 (武内 珠美)
	知的障害児教育演習 (田中 新正)
	音楽実技基礎 (田中 星治)

ピアノ I (田中 星治)  
 保育の指導Ⅱ(人間関係) (田中 洋)  
 体育社会学 (谷口 勇一)  
 体育(小) (谷口 勇一)  
 体育史 (田端 真弓)  
 学校保健(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。) (玉江 和義)  
 政治学概論 (鄭 敬娥)  
 地理学概論(地誌を含む。) (土居 晴洋)  
 小学校教材研究Ⅱ (土居 晴洋)  
 図画工作科指導法(小) (冨田 礼志)  
 算数科指導法(小) (中川 裕之)  
 数学科指導法(中等)/数学科指導法(中)

(中川 裕之)  
 算数(小) (中川 裕之)  
 保育の指導Ⅲ(環境) (永田 誠)  
 幼児教育方法論 (永田 誠)  
 生涯学習概論/生涯学習概論Ⅰ (永田 誠)  
 地学概論 (仲野 誠)  
 オーラルイングリッシュ (永野 彰史)  
 情報工学 (中原 久志)  
 情報処理入門 (中原 久志)  
 情報処理入門 (中原 久志)  
 情報科指導法(高) (中原 久志)  
 保健体育科指導法(中等)/保健体育科指導法(中)  
 (西本 一雄)

【経済学部】

憲法Ⅰ (青野 篤)  
 民法Ⅲ (秋山 智恵子)  
 労働経済論Ⅰ (阿部 誠)  
 人事システム論Ⅰ (碓 邦生)  
 産業・組織心理学Ⅰ (井川 純一)  
 西洋経済史 (市原 宏一)  
 行政法 (伊藤 隆雄)  
 企業ファイナンス論 (鶴崎 清貴)  
 初級政治経済学 (江原 慶)  
 交通論Ⅰ (大井 尚司)  
 経済地理学Ⅰ (大呂 興平)  
 会計学入門 (越智 学)  
 会計学入門 (小野 慎一郎)  
 初級ミクロ経済学 (小野 宏)  
 制度の経済学Ⅰ (金子 創)  
 経済学入門 (金 珍奎)  
 開発経済論 (木村 雄一)  
 アントレプレナーシップ入門 (河野 憲嗣)  
 研究開発マネジメント論Ⅰ (河野 憲嗣)  
 現代国際関係論 (高山 英男)  
 労働関係法Ⅰ (小山 敬晴)  
 イノベーションの経済学 (下田 憲雄)  
 進化経済学Ⅰ (下田 憲雄)  
 EUの政治経済 (デイ スティーブン)  
 イノベーション社会論 (豊島 慎一郎)  
 経営戦略論 (仲本 大輔)  
 民法Ⅰ (藤村 賢訓)

経営学入門 (藤原 直樹)  
 企業取引法Ⅰ (牧 真理子)  
 イノベーション・マネジメント入門 (松隈 久昭)  
 ベンチャー起業論 (渡邊 博子)

【医学部】

精神・神経疾病論 (井上 亮)  
 母性看護学概論 (猪俣 理恵)  
 地域看護システム論 (井手 知恵子)  
 精神看護学概論 (岩本 祐一)  
 解剖学 (清村 紀子)  
 成人周手術期看護方法論 (末弘 理恵)

【工学部/理工学部】

機械製図 (岩本 光生)  
 伝熱学Ⅰ (岩本 光生)  
 伝熱学Ⅱ (橋本 淳)  
 機械設計学基礎 (橋本 淳)  
 流体工学Ⅰ (栗原 央流)  
 機械数学/機械数学Ⅰ (栗原 央流)  
 材料力学基礎・解析/材料力学基礎・演習 (後藤 真宏)  
 材料と弾性の力学 (後藤 真宏)  
 流体工学Ⅱ (山田 英巳)  
 サイエンス解析 (山本 隆栄)  
 機械物理学/機械物理 (山本 隆栄)  
 材料力学基礎・解析 (小田 和広)  
 弾性力学 (小田 和広)  
 機械工作法 (松岡 寛憲)  
 機械数学Ⅱ (石松 克也)  
 システム制御基礎 (中江 貴志)  
 材料力学演習 (堤 紀子)  
 熱力学基礎・解析/熱力学基礎・演習 (田上 公俊)  
 熱工学Ⅱ (田上 公俊)  
 メカトロニクス (田上 公俊)  
 機械要素設計学 (福永 道彦)  
 機構学 (福永 道彦)  
 機械力学基礎・演習 (劉 孝宏)  
 流体力学基礎・解析/流体力学基礎・演習 (濱川 洋充)  
 電気電子工学入門 (金澤 誠司)  
 電気回路Ⅰ/Ⅱ (金澤 誠司)  
 電気磁気学Ⅱ/Ⅲ (金澤 誠司)  
 電気回路Ⅰ (金澤 誠司)  
 電気磁気学Ⅲ/Ⅳ (戸高 孝)  
 電気機器設計・製図 (佐藤 尊)  
 電気電子数学/Ⅱ (柴田 克成)  
 電気電子制御工学Ⅰ (柴田 克成)  
 通信工学 (秋田 昌憲)  
 電気機器工学Ⅱ (槌田 雄二)  
 電気電子計測工学 (槌田 雄二)  
 電気磁気学Ⅱ (片山 健夫)  
 電気磁気学Ⅲ/Ⅳ (片山 健夫)  
 電子回路Ⅱ (緑川 洋一)  
 物理学Ⅰ (菊池 武士)  
 現代制御工学 (菊池 武士)

機構力学 (今戸 啓二)  
 材料力学1/I (今戸 啓二)  
 福祉機器工学I (今戸 啓二)  
 電磁アクチュエータ (小川 幸吉)  
 回路過渡応答論 (小川 幸吉)  
 電気回路II (小川 幸吉)  
 人間システム信号処理 (上見 憲弘)  
 電子回路II (上見 憲弘)  
 電磁気学1/I (濱本 誠)  
 建築耐震システム (菊池 健児)  
 建築構法 (黒木 正幸)  
 鉄筋コンクリート構造 (黒木 正幸)  
 都市計画 (小林 祐司)  
 建築総論 (真鍋 正規)  
 建築設備計画I (真鍋 正規)  
 建築材料 (大谷 俊浩)  
 建築環境計画I (大鶴 徹)  
 建築CAD製図2 (姫野 由香)  
 建築環境工学1/I (富来 礼次)  
 建築環境解析/建築環境工学I演習 (富来 礼次)  
 建築計画設計演習II (鈴木 義弘)  
 建築施工学 (上田 賢司)  
 情報科学C/情報数学 (越智 義道)  
 数理科学概論 (家本 宣幸)  
 基礎解析学3 (家本 宣幸)  
 基礎解析学1 (吉川 周二)  
 基礎解析学3 (吉川 周二)  
 データサイエンス基礎II (原 恭彦)  
 基礎解析学3 (原 恭彦)  
 基礎代数学1 (寺井 伸浩)  
 データサイエンス演習 (小畑 経史)  
 基礎代数学3 (大隈 ひとみ)  
 代数学A展望 (田中 康彦)  
 基礎代数学1 (田中 康彦)  
 解析学A (渡邊 紘)  
 解析学A展望 (渡邊 紘)  
 基礎解析学1 (渡邊 紘)  
 解析学1 (福田 亮治)  
 解析学1展望 (福田 亮治)  
 微分方程式 (福田 亮治)  
 解析学3 (坊向 伸隆)  
 解析学3展望 (坊向 伸隆)  
 情報職業指導 (古家 賢一)  
 情報論理学 (古家 賢一)  
 音メディア処理 (古家 賢一)  
 計算機アーキテクチャ2/II (高見 利也)  
 知識処理論 (高見 利也)  
 コンピュータグラフィックス (西野 浩明)  
 オペレーティング・システム (西野 浩明)  
 英語コミュニケーション (大城 英裕)  
 ソフトウェア工学II (大竹 哲史)  
 基礎プログラミング (池部 実)  
 情報ネットワーク (池部 実)  
 計算機科学概論 (中島 誠)

情報構造論 (中島 誠)  
 データベースシステム (紙名 哲生)  
 言語処理 (吉田 和幸)  
 有機化学概論 (芝原 雅彦)  
 基礎地学 (仲野 誠)  
 物理学実験 (長屋 智之)  
 自然科学概論 (長屋 智之)  
 力学 (長屋 智之)  
 力学 (末谷 大道)  
 基礎物理学 (藤井 弘也)  
 自然科学特別講義1 (折原 宏)  
 力学 (岩下 拓哉)  
 力学 (近藤 隆司)  
 物理化学1/I (永岡 勝俊)  
 高分子化学II (氏家 誠司)  
 化学2 (守山 雅也)  
 原子と分子 (大賀 恭)  
 化学1/無機化学I (大賀 恭)  
 セラミックス化学 (豊田 昌宏)  
 基礎化学 (芝原 雅彦)  
 基礎解析学1 (沖野 隆久)  
 基礎解析学1 (竹本 義夫)  
 代数学1 (馬場 清)  
 代数学1展望 (馬場 清)  
 代数学A (馬場 清)  
 基礎代数学1 (馬場 清)  
 基礎代数学1 (武口 博文)  
 基礎代数学3 (武口 博文)  
 微分方程式 (吉澤 宣之)  
 複素関数 (吉澤 宣之)

【福祉健康科学部】

老年期理学療法 (朝井 政治)  
 内部障害理学療法 (朝井 政治)  
 神経難病理学療法 (朝井 政治)  
 脳血管障害理学療法 (浅海 靖恵)  
 理学療法概論 (浅海 靖恵)  
 神経系理学療法 (浅海 靖恵)  
 物理療法学実習 (阿南 雅也)  
 運動学 (阿南 雅也)  
 現代社会と福祉I (阿部 誠)  
 公的扶助論 (阿部 誠)  
 対人関係論 (池永 恵美)  
 障害児者心理学 (池永 恵美)  
 精神医学I (石井 啓義)  
 老年心理学 (岩野 卓)  
 神経疾患とリハビリテーション (上田 徹)  
 言語聴覚療法学 (牛島 盛行)  
 社会調査の基礎 (大杉 至)  
 社会理論と社会システム (大杉 至)  
 運動器疾患とリハビリテーション (片岡 晶志)  
 がんとリハビリテーション (片岡 晶志)  
 基礎ゼミ(理学療法コース) (河上 敬介)  
 運動器系理学療法 (川上 健二)

基礎理学療法実習	(河上 敬介)
物理療法学	(河上 敬介)
基礎ゼミ (心理学コース)	(河野 伸子)
心理学概論	(河野 伸子)
地域福祉論 I	(川村 岳人)
相談援助実習指導 I	(川村 岳人)
福祉健康科学概論	(衣笠 一茂)
相談援助の基盤と専門職 II	(衣笠 一茂)
相談援助の理論と方法 II	(衣笠 一茂)
高齢者福祉論 II	(工藤 修一)
心理学研究法	(古城 和敬)
人体の構造と機能及び疾病	(兒玉 雅明)
内部障害とリハビリテーション	(兒玉 雅明)
解剖学 I	(紀 瑞成)
解剖学実習 I	(紀 瑞成)
保健医療サービス論	(隅田 好美)
地域包括ケア概論	(隅田 好美)
臨床心理学概論	(武内 珠美)
幼児理解と発達相談	(田中 洋)
精神保健学 I	(堤 隆)
犯罪と法	(遠矢 洋平)
生理学 I	(徳丸 治)

精神保健福祉の理論と相談援助の展開 II	(橋本 美枝子)
精神保健福祉に関する制度とサービス I	(橋本 美枝子)
権利擁護と成年後見制度論	(橋本 聖美)
相談援助実習指導 II	(廣野 俊輔)
相談援助演習 I	(廣野 俊輔)
相談援助演習 II	(廣野 俊輔)
認知心理学	(藤田 敦)
発達と学習の心理学 II	(藤田 敦)
社会保障論 I	(松本 由美)
心理検査実習 I	(溝口 剛)
人格心理学	(溝口 剛)
看護学概説	(宮崎 伊久子)
生理心理学	(村上 裕樹)
神経心理学	(村上 裕樹)
基礎ゼミ (社会福祉実践コース)	(八木 直樹)
義肢装具学実習	(幸 幹雄)
福祉行財政と福祉計画	(四ツ谷 年晴)
英語 I	(Langley, Raymond Garold)
英語 II	(Langley, Raymond Garold)
チュートリアル II	(渡邊 亘)
臨床実践職能論	(渡邊 亘)

## ②平成 30 年度後期授業改善のためのアンケート対象科目

### 【教養科目】

シネマ、ドキュメント映像で学ぶ健康と家族・社会の明日	(住田 実)
地域の住まい論	(川田 菜穂子)
地域と情報	(藤井 弘也)
エクササイズの理論と実践	(麻生 和江)
バラエティースポーツの実践	(玉江 和義)
現代スポーツの問題点を探る -卓球を例にして-	(西本 一雄)
運動学習の科学	(田端 真弓)
生涯スポーツ VI (テニス上達法)	(松元 義人)
生涯スポーツの足がかり II	(西本 一雄)
レクリエーションスポーツと健康づくり	(松元 義人)
市民参加と現代社会	(豊島 慎一郎)
生命保険論～人生を考える～	(藤本 雅巳)
大分の水 II	(市原 宏一)
地域と財政	(林 勇貴)
家族と法	(藤村 賢訓)
大分県の歴史 II	(吉永 浩二)
健康と看護	(井上 亮)
生涯スポーツ IV (テニスを楽しもう)	(岡内 優明)
日本の環境政策	(城井 堅)
秋・冬の野外活動	(前田 寛)
生涯スポーツ V (アウトドアライフへの挑戦)	(前田 寛)
バレーボールの科学	(岡内 優明)
社会福祉と自立思想	(衣笠 一茂)
現代社会と心理学	(武内 珠美)
子どもの人権と福祉	(栄留 里美)
運動器疾患と治療・予防	(片岡 晶志)
現代の福祉政策	(阿部 誠)

高度化①「地域ブランディング」	(岩本 光生)
カラダの見方・考え方	(牧野 治敏)
学習意欲の心理学	(鈴木 雄清)
インストラクショナルデザイン入門	(鈴木 雄清)

### 【教育福祉科学部／教育学部】

国語表現法	(花坂 歩)
学習英文法	(橋本 美喜男)
外国語活動指導法(小)	(御手洗 靖)
理科指導法(小)	(三次 徳二)
地学実験(コンピュータ活用を含む。)	(三次 徳二)
音楽実技基礎	(松田 聡)
音楽科指導法(小)	(松本 正)
福祉の心理学	(前田 明)
現代社会と教育/教育社会学	(長谷川 祐介)
教育コミュニケーション力の開発	(藤井 弘也)
物理学概論	(藤井 弘也)
近代文学史	(藤原 耕作)
特別支援教育概論/特殊教育論	(藤野 陽生)
病弱児の指導法	(藤野 陽生)
小学校授業論	(平田 利文)
社会(小)	(平田 利文)
社会科授業論	(平田 利文)
家庭(小)	(望月 聡)
教育実践の課題 I	(堀 泰樹)
外国語活動指導法(小)	(柳井 智彦)
英語の心理言語学	(柳井 智彦)
幾何学 II	(坊向 伸隆)

精神保健福祉援助演習Ⅱ (橋本 美枝子)  
 ソーシャルワーク演習Ⅲ (廣野 俊輔)  
 日本史特講 (八木 直樹)  
 線形代数Ⅰ (馬場 清)

【経済学部】

憲法Ⅱ (青野 篤)  
 民法Ⅱ (秋山 智恵子)  
 金融イノベーション論 (鶴崎 清貴)  
 会計情報システム論 (大崎 美泉)  
 管理会計論Ⅱ (大崎 美泉)  
 国際金融論Ⅱ (小笠原 悟)  
 初級簿記 (越智 学)  
 中級簿記補論 (越智 学)  
 初級簿記 (小野 慎一郎)  
 会計学Ⅱ (小野 慎一郎)  
 初級ミクロ経済学 (小野 宏)  
 原価計算論Ⅱ (加藤 典生)  
 イノベーション学説史 (金子 創)  
 都市イノベーション論 (川崎 晃央)  
 労働関係法Ⅱ (小山 敬晴)  
 ゲーム理論 (下田 憲雄)  
 経済政策論Ⅱ (高見 博之)  
 現代社会分析論 (豊島 慎一郎)  
 製品開発論 (仲本 大輔)  
 社会調査法 (西村 善博)  
 財政学Ⅱ (林 勇貴)  
 法学入門 (藤村 賢訓)  
 民法Ⅳ (藤村 賢訓)  
 組織革新論 (本谷 るり)  
 ビジネス英語A (ホワイト クリストファー・ミル)  
 市場開発論 (松隈 久昭)  
 租税法 (湯浅 豊生)

【医学部】

小児看護方法論Ⅰ (幸松 美智子)  
 成人慢性期看護方法論Ⅰ (脇 幸子)  
 保健統計学 (杉田 聡)  
 高齢者支援システム論 (三重野 英子)  
 内科系疾病論Ⅱ (濱口 和之)  
 看護実践基盤技術Ⅰ (原田 千鶴)

【工学部／理工学部】

伝熱学Ⅱ (岩本 光生)  
 伝熱学Ⅱ (橋本 淳)  
 工業倫理 (栗原 央流)  
 材料力学 (後藤 真宏)  
 工業力学基礎・演習 (後藤 真宏)  
 流体力学 (山田 英巳)  
 機械計測工学 (山田 英巳)  
 材料力学/Ⅱ (小田 和広)  
 数値解析演習 (小田 和広)  
 機械加工学 (松岡 寛憲)  
 システム制御 (中江 貴志)  
 機械材料学/機械材料学基礎 (堤 紀子)  
 熱工学/Ⅰ (田上 公俊)  
 機械設計学基礎 (福永 道彦)  
 機械力学 (劉 孝宏)  
 流体力学Ⅱ (濱川 洋充)

機械工作法 (齋藤 晋一)  
 機械設計製図Ⅲ (齋藤 晋一)  
 電気回路2/Ⅱ (金澤 誠司)  
 電気磁気学1/電磁気学Ⅰ (金澤 誠司)  
 電気回路2 (金澤 誠司)  
 プログラミング (原 正佳)  
 電気電子材料 (戸高 孝)  
 電気磁気学4 (戸高 孝)  
 プラズマ工学 (市來 龍大)  
 過渡現象論/電気回路Ⅳ (柴田 克成)  
 電気電子制御工学Ⅱ (柴田 克成)  
 過渡現象論 (柴田 克成)  
 通信方式 (秋田 昌憲)  
 電気機器工学/Ⅰ (槌田 雄二)  
 電子回路1/Ⅰ (緑川 洋一)  
 計算機工学 (緑川 洋一)  
 数値解析 (加藤 秀行)  
 バイオメカニズム (菊池 武士)  
 熱・流体工学/流体工学 (菊池 武士)  
 ロボット工学 (菊池 武士)  
 電力システム工学 (後藤 雄治)  
 エネルギー変換工学 (後藤 雄治)  
 制御工学Ⅱ (後藤 雄治)  
 制御工学Ⅰ/1 (後藤 雄治)  
 福祉機器工学Ⅱ (今戸 啓二)  
 材料力学Ⅱ/2 (今戸 啓二)  
 電気回路Ⅰ/1 (小川 幸吉)  
 物理数学2 (松尾 孝美)  
 システム解析/複合システム解析 (松尾 孝美)  
 電子回路1 (上見 憲弘)  
 人間システム工学/生体情報工学 (上見 憲弘)  
 生体運動制御論 (前田 寛)  
 制御工学Ⅱ (池内 秀隆)  
 リハビリテーション工学 (池内 秀隆)  
 電磁気学Ⅱ/2 (濱本 誠)  
 塑性設計法 (菊池 健児)  
 建築構造設計Ⅱ (黒木 正幸)  
 建築構造設計Ⅰ/1 (黒木 正幸)  
 都市システム工学 (小林 祐司)  
 建築環境計画Ⅱ (真鍋 正規)  
 構造力学1/Ⅰ (大谷 俊浩)  
 構造力学1演習 (大谷 俊浩)  
 建築環境工学2/Ⅱ (大鶴 徹)  
 建築環境工学演習/建築環境工学Ⅱ演習 (大鶴 徹)  
 木質構造 (田中 圭)  
 構造解析 (田中 圭)  
 建築計画2/Ⅱ (姫野 由香)  
 建築環境計画Ⅲ (富来 礼次)  
 建築計画設計演習1/Ⅰ (鈴木 義弘)  
 建築CAD製図1 (重田 信爾)  
 統計科学A (越智 義道)  
 幾何学A (家本 宣幸)  
 幾何学A展望 (家本 宣幸)  
 応用数学A (吉川 周二)  
 応用数学A展望 (吉川 周二)  
 基礎解析学2 (原 恭彦)  
 基礎解析学2 (原 恭彦)  
 代数学2 (寺井 伸浩)  
 代数学2展望 (寺井 伸浩)

情報科学B (大隈 ひとみ)  
 情報科学B展望 (大隈 ひとみ)  
 基礎代数学2 (大隈 ひとみ)  
 解析学2 (渡邊 紘)  
 解析学2展望 (渡邊 紘)  
 解析学4 (福田 亮治)  
 解析学4展望 (福田 亮治)  
 ヒューマン・インタフェース (古家 賢一)  
 マルチメディア処理 (行天 啓二)  
 人工知能基礎 (高見 利也)  
 計算機アーキテクチャ1 (高見 利也)  
 情報英語 (西野 浩明)  
 デジタル回路 (大竹 哲史)  
 情報ネットワーク (池部 実)  
 アルゴリズム論 (中島 誠)  
 ソフトウェア工学1 (吉田 和幸)  
 機器分析 (井上 高教)  
 分析化学 (井上 高教)  
 電磁気学/基礎電磁気学 (近藤 隆司)  
 有機機能化学 (氏家 誠司)  
 化学実験入門 (氏家 誠司)  
 生物化学 (信岡 かおる)  
 有機化学1/I (信岡 かおる)  
 環境地球科学 (西垣 肇)  
 宇宙科学概論 (仲野 誠)  
 地学実験 (仲野 誠)  
 物理学実験 (長屋 智之)  
 分子生物学 (北西 滋)  
 基礎解析学2 (馬場 清)  
 確率統計 (馬場 清)  
 基礎代数学2 (馬場 清)  
 ベクトル解析 (吉澤 宣之)  
 フーリエ解析 (吉澤 宣之)  
 基礎解析学2 (沖野 隆久)  
 応用解析Ⅲ (竹本 義夫)  
 応用解析Ⅳ (竹本 義夫)  
 基礎解析学2 (竹本 義夫)  
 基礎代数学2 (武口 博文)  
 確率統計 (武口 博文)

【福祉健康科学部】

児童・家庭福祉論 (相澤 仁)  
 理学療法評価学Ⅰ (朝井 政治)  
 理学療法評価学実習 (朝井 政治)  
 内部障害理学療法学実習 (朝井 政治)  
 脳血管障害理学療法学実習 (浅海 靖恵)  
 理学療法評価学Ⅱ (浅海 靖恵)  
 神経系理学療法学実習 (浅海 靖恵)  
 チュートリアルⅠ (浅海 靖恵)  
 チュートリアルⅢ (阿南 雅也)  
 義肢装具学 (阿南 雅也)  
 運動療法学 (阿南 雅也)  
 生化学 (安部 眞佐子)  
 高齢者臨床心理学 (岩野 卓)  
 健康心理学 (健康・医療心理学A) (岩野 卓)  
 チュートリアルⅠ (栄留 里美)  
 リハビリテーション心理学 (池永 恵美)

慢性疼痛と理学療法学 (片岡 晶志)  
 リハビリテーション医学・概論 (片岡 晶志)  
 運動器系理学療法学実習 (川上 健二)  
 チュートリアルⅠ (河野 伸子)  
 ライフサイクルの心理学 (発達心理学A) (河野 伸子)  
 地域福祉論Ⅱ (川村 岳人)  
 相談援助の基盤と専門職Ⅰ (衣笠 一茂)  
 相談援助の理論と方法Ⅰ (衣笠 一茂)  
 相談援助の理論と方法Ⅲ (衣笠 一茂)  
 相談援助実習指導Ⅲ (工藤 修一)  
 高齢者福祉論Ⅰ (工藤 修一)  
 相談援助演習Ⅲ (工藤 修一)  
 相談援助演習Ⅳ (工藤 修一)  
 社会心理学 (古城 和敬)  
 心理学統計法 (古城 和敬)  
 人間発達学 (紀 瑞成)  
 解剖学Ⅱ (紀 瑞成)  
 解剖学実習Ⅱ (紀 瑞成)  
 臨床心理学実践論 (武内 珠美)  
 教育臨床心理学Ⅱ (武内 珠美)  
 生理学実習 (徳丸 治)  
 生理学Ⅱ (徳丸 治)  
 精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ (橋本 美枝子)  
 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ (橋本 美枝子)  
 精神保健福祉援助演習Ⅰ (橋本 美枝子)  
 障害児者福祉論 (廣野 俊輔)  
 社会保障論Ⅱ (松本 由美)  
 医療心理学 (溝口 剛)  
 心理学実験 (村上 裕樹)  
 心理検査実習Ⅱ (村上 裕樹)  
 心理面接実習 (渡邊 亘)  
 発達と学習の心理学Ⅰ (麻生 良太)  
 スクールソーシャルワーク (小桐 修)  
 行動分析学 (佐藤 晋治)  
 福祉サービスの組織と運営 (塩崎 政士)  
 司法・矯正心理学 (高橋 泰夫)  
 就労支援サービス (中村 廣光)  
 現代社会と福祉Ⅱ (阿部 誠)  
 精神保健学Ⅱ (堤 隆)  
 精神医学Ⅱ (堤 隆)

## 5. 高等教育に関する調査研究

本年度の高等教育に関する調査研究として、他大学での研修会、講演会等に参加した。

- 6月10日・11日 大学教育学会第39回大会（広島大学）
- 9月10日・11日 平成30年度全国大学教育研究センター等協議会
- 12月26日 全学FD推進プログラム「大学教育カンファレンス in 徳島」
- 3月20日 柔軟な学事暦調査 愛媛大学訪問
- 3月23日・24日 第25回大学教育研究フォーラム（京都大学）

### ① 平成30年度全国大学教育研究センター等協議会

日 程：平成30年9月10日（月）～9月11日（日）

場 所：広島大学東広島キャンパス学士会館 2F レセプションホール

主 催：全国大学教育研究センター等協議会

共 催：広島大学高等教育研究開発センター

全体テーマ：「学士課程教育の質を保証する学習支援のあり方を考える」

大学は学生がその政治経済環境やその変化に対応できるよう教育内容や教育方法を工夫するとともに、学生の主体的な取組を支援するために学習環境整備に取り組んでいます。これらの学習支援の内容は、大学そのものの質的变化や取り巻く政治経済の状況によって変化してきました。

#### 【第1日】

公開講演会「学士課程教育における学習支援-その歴史・現状・課題」

講 師：谷川裕稔（四国大学短期大学部教授、学修支援センターセンター長、日本リメディアル教育学会会長）

代表校報告：テーマ「学士課程教育の質を保証する学習支援」北海道大学、山梨大学、名古屋大学、愛媛大学

#### 【第2日】

9分科会（テーマ別グループ討論）「学士課程教育の質保証について」

本分科会では、学士課程教育の質を保証するための仕組みについて、テーマ別に、各テーマや論点の分科会報告及び全体討論

協議会総会

### ② 平成30年度全学FD推進プログラム「大学教育カンファレンス in 徳島」

事業名：大学教育カンファレンス in 徳島

日 時：平成30年12月26日（水）8:50～18:00

会 場：徳島大学教養教育4号館、地域創生・国際交流会館 5F フューチャーセンター

概要：

開会式（8：50～9：05） 司会進行は、川嶋先生

学長から挨拶があり、この研修会は14回目であること、アクティブラーニングが進められていること、来年度入学生よりBYODが始まり、生活困窮者には対応する、等の話があった。その後、二つの会場に分かれて、発表が始まった。

口頭発表 A（牧野が参加した。他に口頭発表 B）

1. デザイン思考の教育効果と企業ニーズの比較

創新教育センター 由井毅、金井純子、北岡和義、寺田賢治

2. 教養教育における体験型学習の実践と効果 ～「藍染めの科学」の事例～

大学院社会産業理工学研究部 佐藤 高則

3. 日本語研修初級コースにおけるアクティブラーニングの取り組み

－教室での学びの最大化のために－ 国際センター 福岡佑子、橋本智

ワークショップ B「教育にインプロを取り入れてみよう！－自らの体験を可視化する試み－」

インプロとはインプロヴィゼーション(即興)の省略語である。大学でのコミュニケーション能力育成法として、演劇的知を使い実践する方法である。今回は以下の7つのアクティビティを実践した。

- 1) 「誕生日並び」、2) 「ならべかえ」、3) 「歩く」、4) 「あなたは刑務所にいます」
- 5) 「イルカの調教」、6) 「Two Dots」、7) 「作成した顔から一人を選んでStory作り」

人の行動や考えを一旦は肯定する姿勢や、感覚を共有する態度などは、自然体験学習でも心がけていることであり、共感する部分も多かった。コミュニケーション能力として非常に高いモノが要求されると実感した。今後、授業に取り入れる要素の多いワークショップであった。

### ③ 第25回大学教育研究フォーラム

今年度の大学教育研究フォーラムは、「大学教育は“役に立つ”のか」を統一テーマとして、平成31年3月23日(土)・24日(日)の両日にわたって、京都大学で開催された。このフォーラムは日本の高等教育に関する最新の情報や各大学での実戦的研究に触れることのできる貴重な機会である。本センターの教員は可能な限り参加している。本年度は、大分県内の大学による共同開発科目の実践の概要について、部会7において「高等教育機関の協働による地域で働くことをテーマにした初年次教育プログラムの開発」を報告した。その詳細は、大分大学高等教育開発センター紀要第11号において「地域で働くことをテーマにした高等教育機関の協働による初年次教育プログラムの開発」として報告した。

## センター利用案内

### 高等教育

授業やカリキュラムの改善のために、分析や提案などの支援を行います。また、研究会やワークショップの企画、教育支援機器の貸し出し・利用方法の説明を行います。お気軽にお問い合わせください。詳細については、ウェブサイトをご参照ください。

### 生涯学習

公開講座をはじめとした地域向け学習プログラムの開発と運営について、支援を行います。「このような講座をしてみたい」というアイデアを実際のプログラムとして実現するために、プログラムのデザイン、連携先の提案、広報の協力などを行います。お気軽にご相談ください。

## センター沿革

- 平成8年10月 生涯学習教育研究センター設置(学内措置)
- 平成10年4月 生涯学習教育研究センターが総合施設に昇格
- 平成13年2月 大学教育開発センター設置(～平成17年3月)
- 平成17年4月 高等教育開発支援センター設置
- 平成20年4月 生涯学習教育研究センターと高等教育開発センターが統合  
現在に至る

## 主な刊行物

- ・大分大学高等教育開発センター紀要
- ・大分大学高等教育開発センター報告書
- ・授業改善のためのアンケート調査結果報告書  
—学生による授業評価—

## アクセス

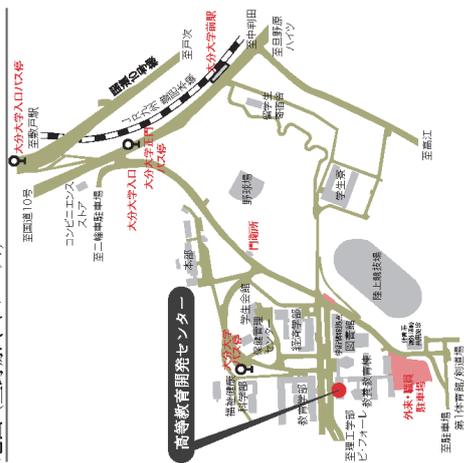
### バス

- 「大分環道(3・4のりば)」または「中央通り(トキノ前1のりば)」
- ・「大南団地・高江ニュータウン」「大分大学」行き → 「大分大学正門」もしくは「大分大学(構内)」(30分)
- ・「戸次」「白杵」「竹田」「佐伯」行き → 「大分大学入口」(30分)

### 鉄道(JR九州 豊肥本線)

「大分」→「大分大学前」(15分)

### 地図(巨野原キャンパス)



## 大分大学高等教育開発センター

870-1192 大分県大分市巨野原 700

097-554-8522(事務) [www.he.oita-u.ac.jp](http://www.he.oita-u.ac.jp)

097-554-8509(高等教育)

097-554-7641(生涯学習)

097-554-7445

hec@oita-u.ac.jp



## 設置目的

大分大学高等教育開発センターは「学内外の関係機関との連携の下に、高等教育及び生涯学習に関する調査・研究及び教育事業を積極的に推進し、もって大分大学における教育及び地域社会の発展に寄与すること」を目的として設置されています。

## 部門構成

1. 新規授業・カリキュラム開発部門
2. メディア・IT活用部門
3. FD・授業評価部門
4. 大学開放推進部門
5. 生涯学習支援システム部門

## 各部門の紹介

### 1. 新規授業・カリキュラム開発部門

#### 概要

教養教育科目における学生の主体的な学びを支援する学習プログラム開発・企画・検討や、地域連携・キャリア形成教育・環境教育などの教育活動を推進しています。

#### 主な事業

1. 全学教育態構における教養教育カリキュラムの策定作業および教育改革活動への参画
2. 教育情報システムを活用したアクティブラーニング導入の促進と授業開発支援
3. 地域連携、高大連携、キャリア教育に関する教育プログラムの開発と推進
4. 大学教育における質保証の検討・策定への参加

### 2. メディア・IT活用部門

#### 概要

インスタグラム・ソーシャル・デザインを活用した授業設計・教材の開発、質保証フレームワーク構築の支援、教学 IR のための調査の実施と分析、単位互換の推進および大学等間連携授業の支援を行っています。

#### 主な事業

1. インストラクショナル・デザインを活用した授業設計やeラーニング教材開発の支援
2. eポートフォリオを中核とする学士課程教育の質保証フレームワーク構築の支援
3. 教学 IR のための学生および教員を対象とした調査と分析
4. 単位互換の推進およびeラーニングによる大学等間連携授業の支援

### 3. FD・授業評価部門

#### 概要

全学的な教育改善を目的とした研修会の企画と実施、学生による授業評価アンケートを行なっています。また、メディア・IT活用部門との連携により、個別の授業改善の支援をしています。

#### 主な事業

1. 教育の全学的な動向や他大学での先進的な取り組みを紹介するための、講演会やワークショップの開催
2. 本学の教育課題に学生と教職員が合同で取り組む学内合同研修会「きつちよむフォーラム」の開催
3. 授業改善に資するための、学生による授業評価アンケートの実施と、その報告書の作成、教員からの回答としての自己点検レポートの作成

### 4. 大学開放推進部門

#### 概要

公開講座・公開授業などの学習プログラムを開発・実施し地域住民や子どもたちの学びを支援する事業を行っています。大学開放を効果的に進めるための仕組みや地域活性化のためのパイロットプログラムの開発も行っていきます。

#### 主な事業

1. 大学開放の内容や方法についての研究開発と、大分大学における仕組みづくり
2. 連携、協働による地域課題の解決など、大学ならではの公開講座の開発・実施
3. 正規の授業を開放し社会人向けの公開授業の推進
4. 生涯学習の観点から、学生のキャリア形成・社会参画を支援する取り組み

### 5. 生涯学習支援システム部門

#### 概要

行政や社会教育関係団体、地域組織などと連携し、地域で生涯学習を支援するネットワークを形成するために、県民の生涯学習活動の支援・啓発、生涯学習・社会教育に関する地域指導者の育成や調査研究等を行っています。

#### 主な事業

1. 社会教育関係職員に対し研修・ネットワーク形成に貢献し、地域の社会教育を活性化・高度化する取り組み
2. 「教育の協働」を推進する中核的なネットワークとして、「大分県『協育』アドバイザ・ネットワーク」、「大分県『協育』ネットワーク協議会」の運営
3. ネットワークでの交流を促進することで、社会教育関係職員や地域での活動者・実践者がつながり活性化する取り組みの推進

## 2. 大学開放推進部門・生涯学習支援システム部門

高等教育開発センターの大学開放推進部門・生涯学習支援システム部門は、本学における大学開放事業の推進と、地域の生涯学習や地域づくりなどの取り組みを支援することを目的に活動している。大学開放推進部門は、公開講座・公開授業の推進など、教育面の大学開放を推進するために主に学内の体制や仕組みの整備に取り組み、生涯学習支援システム部門は、県内をはじめとする社会教育行政事業や地域における様々な取り組みを支援するための仕組みやシステムの開発を目指している。実際には、両部門は大部分の領域において連携して取り組みを行っているため、センターに設置される部門会議も合同で行っている。また、大分大学の共同教育研究施設であり、高等教育系の部門と連携して活動するセンターとして組織されていることから、本学における学生教育の充実や大学ならではの継続高等教育の推進を意識し、中期計画の推進など大分大学全体としての取り組みにも有効に接続・貢献する取り組みを志向している。

平成 30 年度は第 3 期中期計画の 3 年次にあたり、COC+やとよのまなびコンソーシアムおおい等における高等教育機関間の連携や、地方自治体をはじめとする地域の関係機関との連携など、地域における生涯学習支援に向けた取り組みによって中期計画の推進を図った。また、全国国立大学生涯学習系センター協議会での生涯学習系センターとしての全国的な取り組みへの寄与にもあたった。

### 【平成 30 年度の主な取組】

#### (1) 部門会議

##### 1) 第 1 回部門会議

日 時：平成 30 年 5 月 16 日（水）16：30～17：15

場 所：旦野原キャンパス：教養教育棟 会議室 2

#### 議題

##### 1. 平成 29 年度事業報告及び平成 30 年度事業計画について

平成 29 年度の公開講座・公開授業の実施報告を行い、平成 30 年度に実施を予定している公開講座について承認を受けた。委員からの質疑を受け、授業の公開は任意であり、各学部へ強制的に開講を依頼することは考えていないが、公開授業開講科目を増やすための働きかけは継続したいということ、公開授業の効果の検証に関して、現在行っている公開授業受講生へのアンケート調査に加え、学生への調査も検討したいということをお返事した。

##### 2. その他

現在、公開授業に協力いただいた教員に消耗品購入費として割り当てている費用を旅費等にも使用可能とすることで、登録教員が増加するのではという意見を受け、検討することとした。

##### 2) 第 2 回部門会議

日 時：平成 31 年 2 月 7 日（木）15：00～15：25

場 所：旦野原キャンパス：教養教育棟 会議室 2

## 議題

### 1. 大分大学公開講座講習料規程の一部改正について

これまでは、「講座の講習料」は時間数によって講習料が定められているが、例外規定として「公共的生活の強い講座、対象者が児童、生徒である講座及び研究開発的性格を持って実施する講座」はこの限りではなく、高等教育開発センター運営委員会で審議し関係部署との協議を経て講習料を決定することとしていたが、実際には運営委員会の開催頻度が少なく、事後伺いになることが多かった。そこで、例外規定の原則を定め、原則通りに運用する場合には高等教育開発センター運営委員会の承認を必要としないよう、規定の一部改正を提案した。

例外規定の内容としては、公共的性格の強い講座と対象者が児童・生徒である講座については無料、研究開発的な講座については講習料を半額とすることを原則とした。さらに、学習内容の定着や発展のために同一内容の講座の受講を繰り返す受講者に対する支援措置として、同一の講座を2年以内に受講する場合は講習料を半額とすることを原則とすることを提案した。なお、講座等の担当教員の意向や実施部局の要望で、講習料や例外規定の原則によりがたい場合には、高等教育開発センター運営委員会で審議し、関係部署との協議を経て講習料を決定することとした。

### 2. 大分大学公開授業開設状況について

公開授業開設科目数が、平成29年度は79科目、平成30年度は66科目、平成31年（令和元年）度前期は2月7日現在で25科目と、中期目標で定めた開設科目数の達成を考えると厳しい状況であり、各委員に教授会で公開授業の開設を呼びかけるアナウンスを依頼した。

## 【平成30年度の事業内容】

### （1）大学開放事業の推進

本部門では、教育面を中心に大学が有する様々な教育資源・研究資源を開放することで地域の取り組み等に貢献する大学開放事業を推進している。従来から大学開放事業において主要な柱とされてきた「公開講座」（地域住民向けに独自に企画運営される講座）と大学（院）の正規授業科目を公開講座に準じる講習料で開放する「公開授業」が主要な取り組みである。公開講座・公開授業以外にも地域からの要請や学内からの支援依頼などに対応してセンター事業として各種の学習プログラムの企画・運営も行っている。

#### 1) 公開講座

公開講座は、各学部や部局等が実施する講座と、本センターが主催する講座から構成され、センター主催講座は、研究開発的位置づけにある講座や現代的な課題に対応して実施する講座（地域づくりなど公共的な性格を持つ講座や児童・生徒に様々な体験・経験を提供する講座など）を中心に企画・実施している。本学単独の講座に加え、とよのまなびコンソーシアムおおいたでの大学間連携講座やNPO 法人大分ラグビースクール、NPO 法人大分県「協育」アドバイザーネット等の組織と連携した講座も実施している。

平成30年度の公開講座は、前期8講座、後期18講座の計26講座（前年度：23講座）を実施し、受講者の合計は929名（前年度：1,036名）であった。講座数が3講座（13.0%）増

加し、受講者が 107 人（10.3%）減少している。受講者がやや減少しているが、29 年度の比較的人数の多い講座が開設されなかったり受講者が少なかったりしたため、全体としては公開講座の受講は引き続き好調である（募集定員 746 名に対し、申し込み 1,326 名）。

○平成 30 年度大分大学公開講座

	部局	講座名	開設期間	受講者数
1	教育	自分の声を「調べ」にするための 4 つのレッスン I	5 月 15 日～6 月 26 日 (4 日間)	15
2	保健 管理	禁煙について考える	6 月 3 日	34
3	高等	プログラミング教室	7 月 22 日	40
4	高等	将棋講座	8 月 16 日～8 月 23 日 (6 日間)	51
5	理工	暮らしを支える電気・電子・情報技術	8 月 9 日・8 月 10 日	35
6	高等	第 6 回「子どもと本を結ぶあなたへ…」講演会	9 月 8 日	102
7	教育	自分の声を好きになるための絵本探しの旅 I	9 月 4 日～10 月 30 日	8
8	経済	現代社会におけるイノベーションを考える	9 月 27 日～10 月 25 日	23
9	医学	アメリカで学んだ予防医療の最前線	10 月 7 日	50
10	医学	華の (!?) キャンパスライフ	10 月 7 日	70
11	医学	健康寿命日本一をめざしてーラグビーWC2019、東京オリンピック 2020 をひかえてー	10 月 7 日	50
12	医学	健康にやせる“メタボ予防と脱メタボ”	10 月 7 日	40
13	教育	自分の声を「調べ」にするための 4 つのレッスン II	11 月 12 日～12 月 18 日	12
14	高等	豊の国学 中央講座 リレー講演会	11 月 23 日	58
15	教育	自分の声を好きになるための絵本探しの旅 II	1 月 22 日～3 月 19 日 (5 日間)	7
16	高等	プログラミング教室 (夏休み子どもチャレンジの落選者向け)	12 月 2 日	39
17	高等	プログラミング教室 (小学校教員向け)	11 月 17 日	35
18	高等	豊の国学 分野別講座「第 1 回」	2 月 2 日	36
19	高等	豊の国学 分野別講座「第 2 回」	2 月 3 日	33
20	高等	豊の国学 分野別講座「第 3 回」	2 月 9 日	22
21	高等	第 12 回地域発「活力・発展・安心」デザイン実践交流会	2 月 16 日	49
22	高等	子どもアドボカシーって何だろう？ 子どもの声に寄り添うおとなになるための講座	1 月 27 日・2 月 11 日	52
23	高等	小学生ラグビー教室	3 月 3 日・3 月 10 日・ 3 月 17 日	21

24	高等	公開授業の学習を振り返り今後の取り組みを考える ワークショップ	3月13日	2
25	高等	プログラミング教室（学内）	3月9日	29
26	高等	プログラミング教室（竹田市）	3月24日	16
合 計				929

### ○公開講座に関する過去5年間の講座数及び受講者数の変化

直近5年間の公開講座の講座数及び受講者数を示したものが図1・図2である。

講座数については、漸増傾向にあり、平成30年度は平成29年度から3講座（13.0%）の増加となっている。第2期中期計画終了年度である平成27年度との比較では5講座（23.8%）増加している。中期計画項目【27】では、第3期末に（第2期末と比べて）10%の量的拡大が求められているが、現時点では目標を上回るレベルで推移している。受講者数は、929人で28年度の1,036人から107人（10.3%）減少した。この減少は平成29年度に開設された大規模講座が平成30年度には開設されなかったことが主たる要因で長期的な影響を与えるものではない。受講者数については基準となる平成27年度の674人から255人（37.8%）増加しており、目標を大きく上回る増加率を達成している。公開講座に関しては、量的拡大よりも質的充実が重要な位置づけであるが、量的な水準の維持・向上には今後とも努めたい。

質的な部分に関しては、近年は大規模講座での集客という観点よりも、公共性が高いと考えられるテーマで、小規模でも効果の高い参加型の講座を増やすことが重要と考えられるようになってきた。平成30年度には新規の公開講座として「子どもアドボカシーって何だろう？ 子どもの声に寄り添うおとなになるための講座」を開発し実施した。この講座は、子どもの権利主張を支援する子どもアドボカシーの理念や技術について学ぶものである。参加者の大半は教育・福祉に携わっており、日々の生活の中での実践に繋げられるよう、演習的な手法を多く取り入れた点に特徴がある。国や行政によって子どもの権利擁護を図るための第三者的な相談機関の設置が検討されつつある状況下において、地域住民が子どもの権利に基づく支援のあり方について考える機会をもつことは非常に社会的意義があると思われる。今後とも、量的にも一定の充実を図りつつ社会的意義の高い講座の開発に努めていきたい。また、第6回「子どもと本を結ぶあなたへ…」講演会もNPO法人大分県「協育」アドバイザーネットとの連携により、新規公開講座として開講した。東京子ども図書館理事の張替恵子氏が「子どもと本の幸せな出会いのために私たちができること」と題して講演会を行い、読み聞かせ等に取り組んでいる人が熱心に受講した（詳細は高等教育開発センターWebサイトに掲載 <https://www.he.oita-u.ac.jp/blog/2019/03/28/300908-2/>）。

平成24年度から「とよのまなびコンソーシアムおおいた」の公開講座として開設している「豊の国学」は、中央講座と分野別講座を合わせて149名（前年度129名）の参加があった。中央講座については、各機関から講師1名を派遣して頂き、リレー方式の講座を開設しているが、30分では十分に話せないという講師からの声に対応し、1コマの時間を40分に延長し、午前中から夕方までの講座とする方式で平成30年度も運営した。大分大学においては、各学部からそれぞれ1名の教員を推薦していただき、1名は中央講座の講師に、残りの方は分野別講座の講師にと、大分大学からとよのまなびコンソーシアムおおいたでの連携講座に講師を送り出す仕組みを構築し実施している。

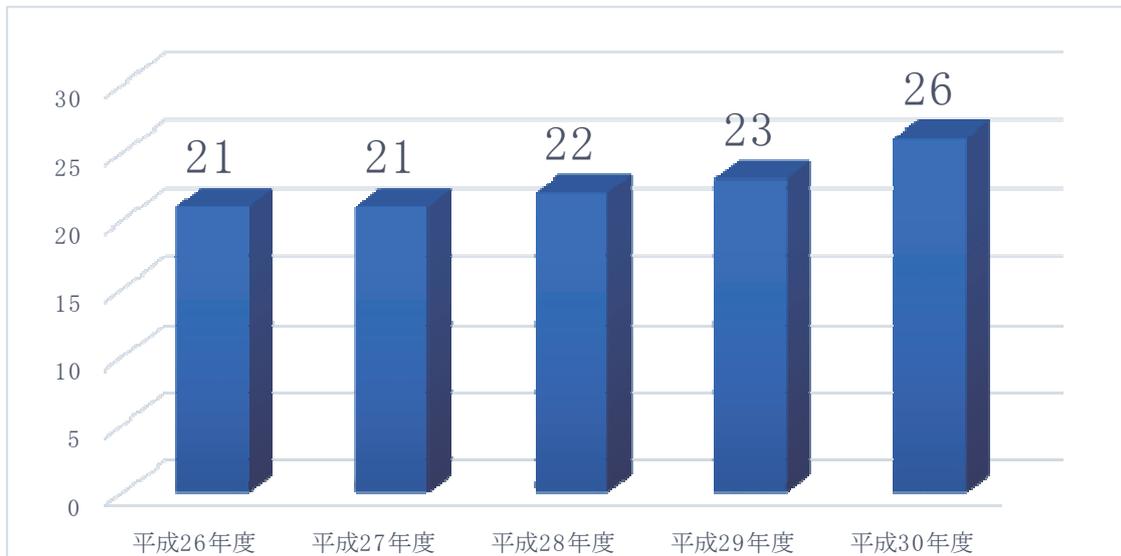


図 1 過去 5 年間の公開講座の講座数

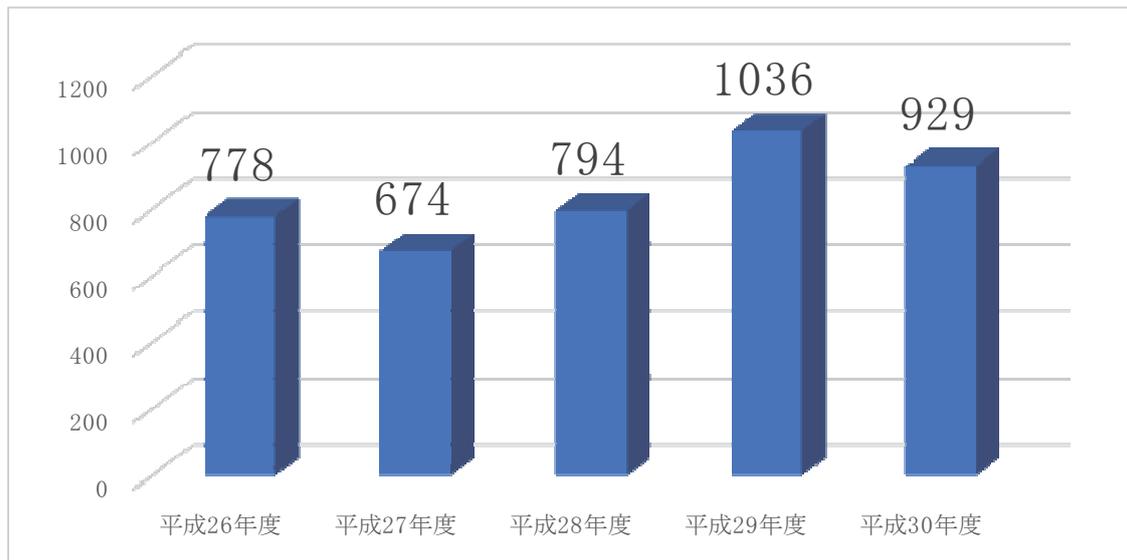


図 2 過去 5 年間の公開講座の受講者数

## 2) 公開授業

公開授業は、正規の授業を開放して学生と共に専門的な教育内容を体系的に学ぶ場を提供するものであり、各科目担当教員の意向調査および一部学部からの推薦にもとづき実施している。新聞折り込み広告での取り組みなどが功を奏し受講者数は増加傾向にあったが、平成 30 年度は開設科目数の減少やリピーターの受講がやや不活発になってきた（年齢が上昇した、受講希望の科目をおおよそ受講してしまった、など）ことで、受講者数も減少した。

平成 29 年度は若干開設科目数が増加したが、平成 30 年度は 66 科目（図 3）とかなり減少してしまった。第 3 期末の評価で基準となる平成 27 年度の開設科目数は 99 科目であり 33 科目（33.3%）の減少、受講者数は現状では第 3 期の目標である 10%増を達成するのはかなり厳しい状況である。今後一層の推進が必要である。今後は、若手教員への働きかけなどを通

して、公開授業開設科目数の回復に取り組む必要がある。

個別の授業をバラバラに受講するだけでなく、公開授業の受講がまとまった内容の習得や社会活動につながるなど、公開授業と公開講座のパッケージ化、さらには公開講座と公開授業とそこでの学習成果の活用までを含めたパッケージ化を行っていく必要がある。そのモデルとして、公開授業として開放していただいている教養教育科目「小学校英語演習」を取り上げ、社会人受講者へのインタビューを行ったうえで、担当教員の教育学部御手洗靖教授にご協力いただき、「公開授業の学習を振り返り今後の取り組みを考えるワークショップ」を開催した。ワークショップでは、受講した授業について共同でふりかえることの有効性を確認したうえで、御手洗教授から授業デザインについて解説していただき、英語学習活動の発展や英語学習の成果を活用した取り組みについて受講者から意見を出していただき協議を行った。成果活用の取り組みについては、今後実現に向けてさらに取り組みたい。

### ○公開授業に関する過去5年間の開設科目数および受講者数の変化

平成24年度から平成29年度までの公開授業開設科目数及び受講者数を示したものが図3・図4である。

開設科目数は、平成25年度の116をピークに減少傾向である。今後、開設科目数の増加に向け一層の取り組みが必要である。退職教員やベテラン教員に比べ、開設率の低い中堅・若手教員に公開授業の意義を感じていただき、開設科目数を増加させる取り組みを継続していきたい。

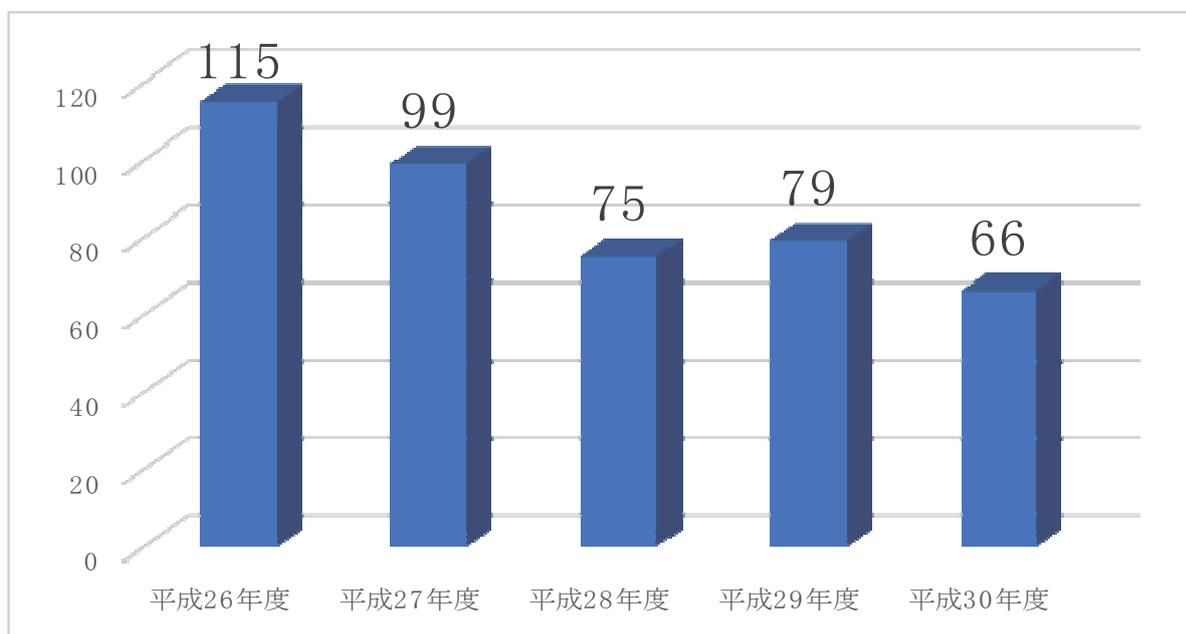


図3 公開授業の開設科目数

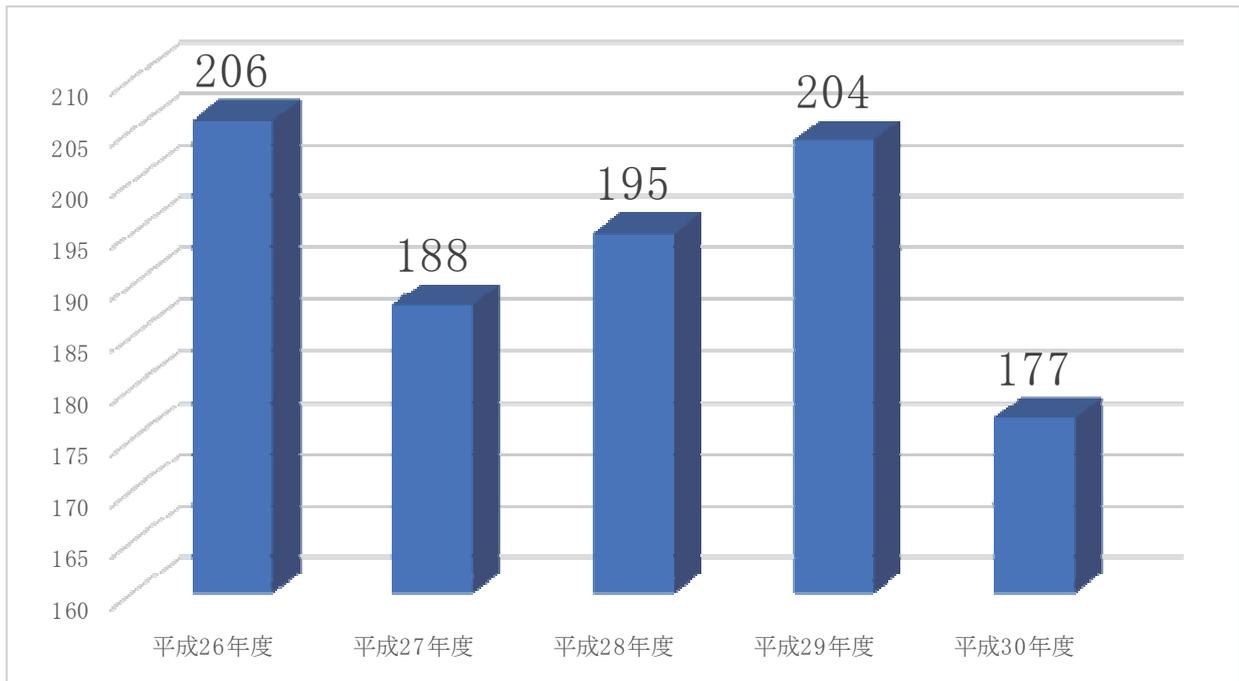


図 4 公開授業の受講者数

次頁に平成 30 年度の大分大学公開授業開設科目の一覧を掲載する。前期 35 科目、後期 31 科の計 61 科目の開設となっており、平成 29 年度から 22.8%の減少となってしまった。大学開放推進部門・生涯学習支援システム部門の部門会議などを通じて各部局に協力依頼を行うなど、新たに協力教員を募る努力が必要になっている状況である。

受講者の分布としては、少人数が幅広い科目に分散して受講するというのが近年の全体傾向であるが、臨床心理学や応用英語など、継続して人気の高い科目もある。

## ○平成 30 年度公開授業科目一覧

## 前期

	科目名	受講者数
1	基礎中国語 I	5
2	音響工学	3
3	現代天文学と生命	10
4	共生社会論	2
5	臨床心理学概論	8
6	生命観の変遷	2
7	経営史	6
8	電気化学	1
9	解剖学	0
10	解剖学実習	0
11	企業論	3
12	スポーツと健康づくりの科学	3
13	応用中国語 I	3
14	人間・労働と技術の現代史	1
15	福祉テクノロジー入門	1
16	老年看護学概論	0
17	電力エネルギー工学	1
18	コミュニケーション入門 I	2
19	創造的思考法	1
20	研究開発マネジメント論 1	0
21	化学 2	0
22	小学校外国語活動指導法	1
23	異文化間コミュニケーション論	2
24	小学校英語演習	3
25	EU の政治経済	5
26	ベンチャー起業論	0
27	舞踊創作実習 III	0
28	英語ゼミナール E : 英語運用力養成訓練 I	7
29	生涯学習論入門	4
30	基礎経営論 I	1
31	社会政策	1
32	都市経営論 I	1
33	現代国際関係論	3
34	国際健康コンシェルジュ養成講座	17
35	システム L S I 設計特別講義	0

## 後期

	科目名	受講者数
1	基礎中国語 II	5
2	社会心理学を学ぶ	6
3	シネマ、ドキュメント映像で学ぶ健康と家族・社会の明日	0
4	教養としてのコンピュータ	2
5	現代アジア社会論	6
6	小学校外国語活動指導法	0
7	臨床心理学実践論	7
8	Education of the World in Comparative Perspective	1
9	地域と情報	1
10	カラダの見方・考え方	5
11	エクササイズの理論と実践	1
12	「考え、議論する」道徳教育の授業づくり入門	0
13	応用中国語 II	4
14	古典文学講読	3
15	コミュニケーション入門 II	1
16	インストラクショナルデザイン入門	0
17	大分のものづくりと地域づくり	2
18	生活行動論 II	1
19	日本語学 I	5
20	多文化共生論	0
21	小学校英語演習	2
22	グローバル化と政治経済 (The Politics and Economics of Globalization)	5
23	英語科授業論	0
24	プラズマ工学	0
25	英語ゼミナール F—英語運用訓練 II	6
26	前近代日本の国家と社会	4
27	基礎経営論 II	5
28	都市経営論 II	1
29	現代国際関係史	4
30	数値解析	1
31	知的財産入門	2

## (2) 大学教育と生涯学習の接続・連携

### 1) 生涯学習・社会教育に関する授業の実施（教養教育）

#### 【生涯学習論入門】

生涯学習に関する基本的理解を得、大学の授業なども含めて自分の学習を経営し、展開するための視点を獲得することを目的として、生涯学習に関わる諸側面を講義した。平成 25 年度より大分県子ども子育て支援課との連携により実施した「ライフデザイン講座」を受け、担当教員単独の取り組みとしてライフデザインについて考えるワークショップを継続し、県が作成したパンフレットも活用した。

#### 【学習ボランティア入門】

きっちよむフォーラムで学生から要望があったボランティア活動を単位化する授業として、ボランティア活動を中心とした授業を平成 23 年度から継続している。

①講義：4 時限（授業趣旨、学習ボランティアの意義・心得等）

②活動：9 時限（15 時間以上）

※実際に地域へ出かけて子どもや高齢者等に関わるボランティア活動を行う。

③振り返り：2 時限（ボランティア報告会とまとめ）

#### 【プロジェクト型学習入門 1・2～インターンシップセミナーB～】

大学で学ぶ力を付けさせるため、また社会人として必要な力の基礎を修得させるため、プロジェクトを自ら企画し、実行することで、企画力、提案力、コミュニケーションスキルなどの向上を図っている。平成 30 年度も大分大学生協との連携により、学生生活における困りを解決あるいは学生生活をもっと魅力的なものにする取り組みを考え、実行した。前期は「夏の大運動会」、後期は「大学生協食堂混雑緩和（立ち食い席）」、「試験の過去問」、「フリーマーケット」をテーマとしてプロジェクトを企画し実施した。

#### 【中小企業の魅力の発見と発信】

大分県中小企業家同友会の協力を得、県内の中小企業の魅力的な職場でのインターンシップに加え、魅力の取材も行い、就業に向けた意識への働きかけや県内で働こうという意欲の喚起を意図した授業である。平成 30 年度は、(株) 中津レンタリース様、(株) 美装管理様、(株) アークホーム様にご協力いただいた。

#### 【分大キャンパスライフ入門】

大分大学でキャンパスライフを送るにあたって知っておいてほしい内容を講義するオムニバス形式の授業で、高等教育開発センターは 3 回分を担当し、グループワークを実施している。今年度は岡田が主となって 4 月 17 日に、「ライフデザインとキャリアの展望」というテーマで講義及びグループワークを実施した。ライフデザインをなるべく早く明確にすること、それとの関連で大学にいる間にどのような力を身につけどのようなキャリアを作っていくかを考えてもらった。

## 2) 本学及び学部の授業・講習との接続

### 【大分の水Ⅰ】 【大分の水Ⅱ】

これらの科目は、平成 21 年度選定大学教育・学生支援推進事業【テーマ A】大学教育推進プログラム「水辺の地域体験活動による初年次教育の推進—学生の社会性向上を図る総合的教養教育の実践—」（以下水辺 GP と略記）の取組として開始された授業科目であり、本学教員グループを事務局とする NPO 法人大分水フォーラムの事務局員である岡田が関与している。具体的には、【大分の水Ⅰ】および【大分の水Ⅱ】では、週末に行われる地域体験活動プログラムのコーディネートや運営（竹田市岡本地区）を行っている。教室の講義形式の授業では意欲が高くない学生であっても、現地で地元の人への指導を受ける際には意欲的な姿勢を見せる傾向があり、想定以上の効果を得ることができた。

## 3) 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）

文部科学省委託事業「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC+事業）の実施にあたり、生涯学習系部門が関係する教育プログラム開発事業の取組をおこなった。専任教員が県内就職率向上部会の委員を務め、高度化②科目に位置づけられている「高度化学習ボランティア実践」を実施することになっていたが、受講登録がなく開講しなかった。同科目では、引き続き NPO 法人ハートフルウェーブと連携し、不登校児童・生徒のコミュニケーション力向上に向けた取組において学生の企画力・運営力を高めたいと考えている。

## (3) 情報収集提供・相談活動

### 1) 情報収集・提供

○高等教育開発センターHP に、「生涯マナぶ」と「公開講座・公開授業」という 2 つのバナーを設けており、適時講座等の情報を掲載している。今後、公開講座・公開授業受講者以外、特に社会教育関係職員の支援に役立つように相談の受付や研修プログラムの公開など取り組みを進めていきたい。

○紙媒体の情報提供については、公開授業パンフレットを前期、後期別に 2 回作成して、大分市を中心に配布した。さらに、公開講座については「夏休み子ども教室」としてまとめたパンフレットと講座ごとのチラシを作成し事業ごとに募集した。また、平成 23 年度からの取組として、公開授業の広報を新聞チラシに挿入しての配布を行うなど、幅広く様々な形で広報を行って情報発信を図った。その効果は、公開授業受講生の増加やリピーターの定着という形で現れている。

### 2) 相談活動

学習相談に関する活動は特になかった。近年、自治体社会教育行政との連携に力を入れており、それに関する事業推進の方向性（研修のデザイン、実施プロジェクトのデザイン、社会教育関係職員のネットワーク形成など）について相談活動を行うことが主体に

なっている。平成 30 年度は、大分県立図書館、杵築市教育委員会、由布市教育委員会などと打ち合わせを行い、事業の推進について相談を行った。

#### (4) 学内のネットワーク化

##### 1) 部門会議の実施

年度当初の年間実施計画の協議、後期における各種取組計画等について、部門長から提案して審議するとともに、個別の案件については、関係する部門委員に相談するなどして生涯学習関連の取組の充実を図った。

##### 2) 生涯学習支援に関する教員のネットワーク化

公開講座の実施については、各学部での計画・実施や教員が自主的に実施するなどのシステムがある。さらに、大分水フォーラムを通じた連携やセンターが各課題に対応する講座、市町村と連携・協同で実施する講座・調査研究においても一定のネットワークが出来ている。そうした中、平成 25 年度から「とよのまなびコンソーシアムおおいた『連携講座』」の「豊の国学」の実施にあたって、大分大学では各学部から 1 名の講師を選任するシステムができ、学部から選任された教員が「中央講座」と「分野別講座」の専門分野での講義をおこなった。

#### (5) 地域生涯学習支援システムの整備

本センターの役割として、県民の生涯学習を支援するシステムづくりを行うとともに、その中で重要な役割を果たす社会教育関係職員、指導者・ボランティアなどといった支援者の力量の向上にも取り組み、間接的に地域住民の学習を支援することが重要となる。そこで、これらの支援者も含めた連携のシステムの構築を通じての地域貢献を図るため、次の取組をおこなった。

##### 1) 生涯学習支援ネットワーク化の取組

###### ①県及び市町村教育委員会とのネットワークづくり

県教育庁社会教育課や県立図書館学校・地域連携課と、個別の研修事業に関する打ち合わせ会を実施するなどして、連携を深める取組をおこなった。研修の講師を務めるだけでなく、研修後の実践支援にもセンター事業として関与し、取り組みの深化や発展を支援した。具体的には、大分大学教員 3 名と別府大学教員 1 名の計 4 名で社会教育研究者のネットワークを設立し、各自がバラバラに特定のセクションの講師を引き受けて担当するのではなく、研修のデザインに関する意見交換を共に行い、可能な範囲で自分が直接担当しない研修（セクション）についてもボランティアとして支援に入るなど多面的に支援し合う仕組みを開発した。また、受講者と研修実施主体である大分県立図書館、さらには社会教育を専門とする大学教員のネットワークを形成することを意図して、新任者研修と専門研修の終了後に交流会も設定した。このような社会教育関係職員研修を軸とした力量形成・ネットワーク形成や実践支援の取り組みについては、今後も継続的に推進していく計画である。

さらに、本センターが実施する各種取り組みについて市町村事業と協働して実施するなどし（平成 30 年度は由布市教育委員会との自治公民館モデル事業の推進と杵築市女性団体ネットワーク事業の推進を行った）、市町村と日常的な連携を取りながらネットワーク化を図った。

## ②県内高等教育機関のネットワーク化

「とよのまなびコンソーシアムおおいた」の生涯学習関係事業（連携講座）において分科会を行う中で、各学校の現状を把握するとともに、担当者との意思疎通を図ることができた。さらに、「豊の国学」として講座を提供するシステムを形成して取り組んでいる。

## 2) 支援団体等の活動

### ①大分大学学生の学習ボランティアサークル「フォーバル」の活動

高等教育開発センターでは、学生自身が学びながら地域住民の学びを支援する学習ボランティアの育成に取り組んでいる。近年は、大学周辺地域との交流活動を行う「WITH（ウィズ）」、県内の学校や施設等で読み聞かせ活動を行う「ゆい（結い）」、別府市内の子ども達への学習支援等の活動を行う「コネクト」の 3 つのグループが活動しており、センターとしてはその支援を行った。

#### ○「WITH」の活動

大分大学且野原キャンパスに隣接する且野原ハイツ自治区の住民との交流を目的とし、大分大学前駅の共同での清掃や公民館祭り等地域行事への参加などを行っている。

#### ○「ゆい（結い）」の活動

- ・学生読み聞かせボランティア「ゆい」の育成のための月 1 回の勉強会を開催
- ・夏休み人権教育講演会の講師（佐伯市立鶴岡小学校）
- ・学童保育読み聞かせボランティア活動の実施（大分市）

#### ○「コネクト」の活動

別府市石垣小学校での活動を主軸に、津久見市教育委員会との連携による夏休み・冬休みの小学生学びの教室を行うなど、子ども達の学習支援に取り組んでいる。

- ・別府市立石垣小学校放課後児童クラブの学習支援ボランティア
- ・石垣児童クラブ夏祭りの運営補助
- ・石垣小学校の夏休み学力向上「ステップ・アップ」講習等を学習支援（5日間）
- ・別府市鶴見台中学校学習支援
- ・朝日青少年育成協議会の活動に参加

### ②NPO 法人大分県「協育」アドバイザーネットとの連携

NPO 法人大分県「協育」アドバイザーネットは、本センターが実施した「協育」アドバイザー養成講座受講者によって組織され、県内の「子育てにおける教育の協働」に向けて取り組みを進めている。本センターに在籍した中川忠宣教授（平成 30 年度当時 COC+推進機構特任教授）が理事長、センターの岡田が顧問となっている。センターとしては、組織の養成・活動に関わってきた経緯から、またこの組織の取り組みが教育の協働に資することから、連携・協

働を行っている。研修会の実施や講師としての参加、モデル事業の実施、地域発「活力・発展・安心」デザイン実践交流会の実施など、活発な取り組みを行っていただいている。

## (6) 生涯学習推進と社会的活動の取組

県及び市町村教育委員会社会教育行政等と連携し、生涯学習・社会教育に関する調査研究の成果を普及・還元するとともに、本センターが持つ各種情報等を生かした生涯学習を推進し、センターとしての社会的活動による地域貢献の取組をおこなった。

### 1) 県・市町村教育委員会生涯学習・社会教育行政との連携

=委員等への就任=

#### 【大分県関係】

- 大分県協働推進会議委員長（岡田）
- 大分県青少年健全育成審議会委員長（岡田）
- 大分県子ども子育て応援県民会議副会長（岡田）
- 大分県こども園認定部会会長（岡田）
- おおいた共創基金理事・副理事長（岡田）
- 大分県「地域を担う NPO 協働モデル創出事業」審査委員（岡田）

#### 【県内市町村関係】

- 大分市地区公民館長選考委員会委員（岡田）
- 大分市南部公民館運営審議会委員（岡田）
- 由布市湯布院公民館プロポーザル選定委員会委員（岡田）
- 由布市自治公民館モデル事業（岡田）
- 大分市生涯学習推進担当者研修会（岡田）

=社会教育関係職員・生涯学習関係者研修事業=

#### 【大分県関係】

- 大分県社会教育新任職員研修（岡田・正木）
- 大分県社会教育主事専門研修（岡田・正木）
- 大分県児童支援員研修講師（岡田）
- 大分県放課後児童クラブのこれからを考える集いシンポジスト（岡田）
- 大分県社会教育行政職員専門研修講師（岡田）
- おおいたボランティア・NPO センター調査事業委員（岡田）

#### 【市町村関係】

- 大分市大分南部公民館「おやじの夜なべ談義」コーディネーター（岡田）
- 由布市自治公民館研修講師（岡田）
- 由布市社会協育振興大会講師（岡田）
- 杵築市わくわく女性リーダー研修会講師（正木）

## 2) 国、都道府県、団体、機関等との連携・支援

### 【国・他県生涯学習関係者研修事業支援（主なもの）】

- 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター社会教育主事専門講座 A 講師（岡田）
- 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター公民館職員専門講座講師（岡田）
- 広島大学教育学部集中講義「現代社会と社会教育」非常勤講師（岡田）
- 広島大学社会教育主事講習「社会教育におけるコーディネート」・「社会教育におけるネットワーク」（岡田）、「障害者の学習をめぐる現状と課題」・「意識変容と成人の学習」（正木）担当
- 山口県公民館職員研修講師（岡田）
- 島根県対象者別研修「第 1 回コーディネーター研修」講師（岡田）
- 福岡県京築地区社会教育主事等連絡協議会講師（岡田）
- 福岡県京築地区社会教育主事研修会講師（岡田）
- 島根県浜田市はまだっ子共育研修会（岡田）
- 福岡県京築地区社会教育委員研修（岡田）

### 【委員等への就任】

- 全国国立大学生涯学習系センター協議会理事・副会長（岡田）
- とよのまなびコンソーシアムおおいた生涯学習分科会長（岡田）
- 中国・四国・九州生涯学習実践交流会大分県実行委員（岡田）
- 地域発「『活力・発展・安心』デザイン実践交流会」委員（岡田）
- おおいた水フォーラム事務局（岡田）

# Ⅲ 付 録

## 1. センター関係諸規則

### (1) 大分大学高等教育開発センター規程

平成20年4月1日制定

#### (趣旨)

第1条 この規程は、大分大学学則（平成16年規則第8号）第7条第2項の規定に基づき、大分大学高等教育開発センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

#### (定義)

第2条 この規程において「部局」とは、国立大学法人大分大学部局を定める規程（平成16年規程第14号）第2条第3項第1号に規定する部局のうち、事務局を除く部局をいう。

2 この規程において「部局長」とは、前項に規定する部局を掌理する者をいう。

#### (目的)

第3条 センターは、学内外の関係機関との連携の下に、高等教育および生涯学習に関する調査・研究及び教育事業を積極的に推進し、もっと大分大学（以下「本学」という。）における教育及び地域社会の発展に寄与することを目的とする。

#### (業務)

第4条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 新規授業・カリキュラム開発に係る業務
- (2) メディア・IT活用関連に係る業務
- (3) FD・授業評価関連に係る業務
- (4) 大学開放推進関連に係る業務
- (5) 生涯学習支援システム関連に係る業務
- (6) その他センターの目的を達成するために必要な業務

#### (部門)

第5条 センターに次の各号に掲げる部門を置く。

- (1) 新規授業・カリキュラム開発部門
- (2) メディア・IT活用部門
- (3) FD・授業評価部門
- (4) 大学開放推進部門
- (5) 生涯学習支援システム部門

#### (職員)

第6条 センターに次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) センター次長
- (3) 専任教員
- (4) 部門長
- (5) センター員

(センター長)

第7条 センター長は、センターの業務を掌理する。

- 2 センター長は、本学の教授のうちから、大分大学学内共同教育研究施設等管理委員会（以下「管理委員会」という。）の推薦に基づき、学長が任命する。
- 3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター次長)

第8条 センター次長は、センター長を補佐し、センター長に事故があるときはその職務を代行する。

- 2 センター次長は、本学の教員のうちから、管理委員会の推薦に基づき、学長が任命する。
- 3 センター次長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、センター次長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第9条 専任教員は、教育研究に従事するとともに、センターの業務を行う。

- 2 専任教員の選考は、管理委員会の議に基づき、学長が行う。

(部門長)

第10条 部門長は、センター長の指示を受け、第5条各号に規定する各部門をそれぞれ統括する。

- 2 部門長は、本学の教員のうちから、センター長の推薦に基づき、学長が任命する。
- 3 部門長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、部門長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター員)

第11条 センター員は、担当部門の研究開発、支援等を行う。

- 2 センター員は、本学の教員のうちから、部局長の推薦に基づき、学長が任命する。
- 3 センター員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、センター員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営委員会)

第12条 センターの円滑な運営を図るため、大分大学高等教育開発センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

- 2 運営委員会に関する必要な事項は、別に定める。

(専門委員会)

第13条 運営委員会に、業務に係る専門的事項について調査及び実施するため、専門委員会を置くことができる。

- 2 専門委員会については、別に定める。

(事務)

第14条 センターに関する事務は、学生支援部教育支援課において処理する。

(雑則)

第15条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は別に定める。

附 則（平成20年規程第8号）

- 1 この規程は平成20年4月1日から施行する。
- 2 大分大学生涯学習教育研究センター規程（平成16年規程第134号）及び大分大学高等教育開発センター規程（平成17年規程第12号）は廃止する。

## (2) 大分大学高等教育開発センター運営委員会細則

平成20年4月1日制定

### (趣旨)

第1条 この細則は、大分大学高等教育開発センター規程（平成20年規程8号）第11条第2項の規定に基づき、大分大学高等教育開発センター運営委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

### (審議事項)

第2条 委員会は、大分大学高等教育開発センター（以下「センター」という。）の円滑な運営を図るため、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの運営に関する事項
- (2) センターの事業計画に関する事項
- (3) 部門間の連絡調整に関する事項
- (4) その他センターに関する必要な事項

### (組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) センター次長
- (3) 専任教員
- (4) 部門長
- (5) 各学部から選出された教員 各1人
- (6) 大分大学学術情報拠点運営会議から選出された者 1人
- (7) 大分大学産学官連携推進機構運営会議から選出された者 1人
- (8) 研究・社会連携部長
- (9) 学生支援部長
- (10) その他センター長が必要と認めた者

2 前項第5号から第7号まで及び第10号の委員は、学長が任命する。

3 第1項第5号から第7号まで及び第10号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

### (委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する者がその職務を代行する。

### (会議)

第5条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 委員会の事務は、学生支援部教育支援課において処理する。

(雑則)

第8条 この細則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則 (平成20年細則第3号)

- 1 この細則は平成20年4月1日から施行する。
- 2 大分大学生涯学習教育研究センター運営委員会規程(平成16年規程第135号)、大分大学高等教育開発センター運営委員会規程(平成17年規程第13号)及び大分大学公開講座専門委員会内規(平成16年4月1日制定)は廃止する。

附 則 (平成23年学内共同教育研究施設等細則第2号)

この細則は、平成23年4月1日から施行する。

### (3) 大分大学高等教育開発センター紀要刊行に関する申し合わせ

平成20年10月10日制定

平成22年 6月18日改正

#### (趣旨)

- 1 この申し合わせは、大分大学高等教育開発センター（以下「センター」という）紀要（以下「紀要」という）の編集および刊行等に関して、必要な事項を定めるものとする。

#### (紀要の内容)

- 2 紀要には、高等教育または生涯学習についての未発表の学術論文、研究ノート、報告、翻訳、資料等（実践報告を含む）を掲載するものとする。

#### (投稿資格)

- 3 投稿者は、投稿日において次の各号の一に該当していること。ただし、共著の場合には、筆頭著者が投稿資格を満たしていればよい。
  - (1) 本学教員
  - (2) 本センター客員研究員
  - (3) 本センターが依頼した人
  - (4) 本センター運営委員会が認めた人

#### (執筆要領)

- 4 投稿原稿に関する執筆要領については、別に定める。

#### (刊行)

- 5 紀要は原則として年1回発行するものとする。

#### (刊行費)

- 6 刊行費は、センター共通費で負担するものとする。ただし、次の各号については、執筆者の個人負担とする。
  - (1) 論文の刷り上がりページ数が20ページを超える場合
  - (2) 別刷が50部を超える場合

#### (学術情報リポジトリへの登録・公開)

- 7 本誌に掲載された論文等については、大分大学がデータベースとして構築し、インターネットを介して学内外に公表する。ただし、執筆者が希望しない場合は、高等教育開発センター長に申し出ること。

#### 附 記

この申し合わせは、平成22年6月18日から実施する。

## (4) 大分大学高等教育開発センター紀要執筆要領

平成20年10月10日制定

### 1) 投稿枚数

投稿原稿は、単独執筆または共同研究に関わらず、原則として一編につき刷り上がりで20ページ以内とする。刷り上がりで30ページ以内であれば受理するが、その場合には刊行費用について執筆者が応分の負担をするものとする。

投稿枚数は、題目、要旨、キーワード、図表、注、参考文献等を所定の枚数の中に含めて算定することとする。

### 2) 投稿申込および原稿提出の期限

投稿申込の期限は毎年12月28日とし、原稿提出の期限は毎年1月末日とする。なお、当該日が休日の場合、次の勤務日を期限とする。

### 3) 審査および掲載の可否

投稿された原稿は、センター運営委員会で掲載の可否について判断された上で紀要に掲載されるものとする。場合に応じて、加筆、修正、削除を求めることがある。

### 4) 原稿の提出

原則として、原稿はワープロソフトを使用して作成し、プリントアウトしたもの(1部)とファイルを保存したメディアを提出する。

①プリントアウトは以下の書式で作成する。

- ・用紙はA4縦とする。
- ・ページレイアウトは横書きとし、上30mm、左右20mm、下20mmの余白をとる。
- ・1ページあたり、40字×40行とする。
- ・カラー印刷を希望する場合、その旨を明記する。

### 5) 参考文献

参考文献は原稿末尾に掲載する。雑誌の場合、著者・文献名・巻・号・出版年月・ページを、単行書の場合には、著者・書籍名・出版社・出版年・ページを記入する。

### 6) 校正

校正は一校を原則とし、必要最低限の訂正、修正に留めるものとする。

### 7) 別刷

別刷は原則として50部とする。50部を超える別刷を希望する場合には、執筆者が刊行費用について応分の負担をするものとする。

## 2. 平成30年度高等教育開発センター 委員会等名簿

### 高等教育開発センター運営委員会

委員長	西野 浩明	高等教育開発センター長
委員	牧野 治敏	高等教育開発センター次長
委員	岡田 正彦	高等教育開発センター
委員	鈴木 雄清	高等教育開発センター
委員	正木 遥香	高等教育開発センター
委員	財津 庸子	教育学部
委員	西村 善博	経済学部
委員	中川 幹子	医学部
委員	渡邊 紘	理工学部
委員	徳丸 治	福祉健康科学部
委員	吉田 和幸	学術情報拠点運営会議
委員	小田 和広	産学官連携推進機構運営会議
委員	堀池 幸浩	研究・社会連携部長
委員	湯澤麻起子	学生支援部長

### 新規授業・カリキュラム開発部門

部門長	西野 浩明	高等教育開発センター長（理工学部）
-----	-------	-------------------

### メディア・IT活用部門

部門長	鈴木 雄清	高等教育開発センター
センター員	牧野 治敏	高等教育開発センター
センター員	中原 久志	教育学部
センター員	藤井 弘也	教育学部
センター員	豊島慎一郎	経済学部
センター員	三重野英子	医学部
センター員	福田 亮治	理工学部
センター員	阿南 雅也	福祉健康科学部
センター員	吉崎 弘一	学術情報拠点

### FD・授業評価部門

部門長	牧野 治敏	高等教育開発センター
センター員	鈴木 雄清	高等教育開発センター
センター員	永田 誠	教育学部
センター員	小野慎一郎	経済学部
センター員	中川 幹子	医学部
センター員	原田 拓典	理工学部
センター員	紀 瑞成	福祉健康科学部

## 大学開放推進部門及び生涯学習支援システム部門

部 門 長	岡田 正彦	高等教育開発センター (大学開放推進部門長)
部 門 長	正木 遥香	高等教育開発センター (生涯学習支援システム部門長)
センター員	小山 拓志	教育学部
センター員	久保田 亮	経済学部
センター員	藤木 稔	医学部
センター員	小田 和広	理工学部
センター員	廣野 俊輔	福祉健康科学部

平成30年度

大分大学高等教育開発センター報告書

発行 令和2年(2020年)3月  
編集 大分大学高等教育開発センター  
〒870-1192 大分市大字旦野原700番地  
Tel (097) 554-8509  
fax (097) 554-7445  
<https://www.he.oita-u.ac.jp/>